

目 次

繊維情報

・2005年10月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1
・2005年9月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	7
・アジア 中国 2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は前年割れ.....	10
韓国 2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は苦戦、輸入は増加推移.....	15
香港 2005年1～9月の繊維品貿易・輸出入共に堅調に増加.....	18
・米州 米国 2005年9月の繊維品輸入、引き続き大幅に増加.....	21
2005年10月の大手小売店販売、引続き堅調.....	24
米中繊維協定品目の米国の最近の対中輸入状況.....	26

組合関係の会議と催事

・(2005年11月)(2005年12月のスケジュール).....	27
-----------------------------------	----

組合業務報告

・ブラジル繊維市場調査団の派遣(輸出).....	29
・消費財包括保険の地域差料率(国倍率)の引下げを要望(輸出).....	30
・「第14回貿易実務研修会」(東京・大阪・名古屋)を開催(輸入).....	33
・「バングラデシュ投資セミナー」の概要(輸入).....	36

お知らせ

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出).....	40
・年末年始の包括保険申込書の受付事務(輸出).....	41
・輸出組合・輸入組合の年末・年始の執務(輸出入).....	41
・平成18年新年賀詞交歓会のご案内(輸出入).....	42
・2005年・税関の年末・年始事務処理要領.....	43
・1月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	48

組合員情報

・組合員情報.....	48
・海外取引照会・展示会案内.....	49



2005年10月の繊維品輸出概況

- ・ 繊維品全体の輸出
- 前年同月比 10%減の 6 億 3,815 万ドルと 4 ヶ月連続の減少 -

2005年10月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比 10%減(1-10月前年同期比:2%減)の 6 億 3,815 万ドルとなった。今年上半期は増勢基調で推移してきたが、下半期に入り 4 ヶ月連続の減少となり、減少幅も 2 桁の減少と拡大傾向となっている。

なお、為替は 2004 年 10 月の 108.92 円に対し、2005 年 10 月は 114.82 円と 5%強の円安推移となっており、円ベースでは 5%減(同 2%減)の 732 億 7,200 万円となっている。

< 主要地域別輸出 >

10 月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の 77%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが前年同月比 10%減(同 3%減)の 4 億 8,658 万ドルとこの 4 ヶ月減少に転じ、全体の輸出減少の地域的な最大の要因となっている。

東アジアの主要国向けでは、ベトナム、マレーシアは好調に推移したが、最大市場の中国を始め、香港、韓国、台湾、タイ、シンガポール、フィリピン、インドネシアが減少推移となった。中でも、わが国の繊維品輸出を主導してきた中国が 5 ヶ月連続の減少となった。持ち帰り用素材の現地調達進展が伺われ、先行きが懸念される。

純輸出市場向けは、シェア 3%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が増加したが、イランが半減し、全体として 4%減(同 2%減)の 2,476 万ドルと低調な推移となった。

欧米市場も不振で、シェア 8%の EU は 21%減(同 1%増)の 4,891 万ドル、シェア 7%の米国は 8%減(同 1%増)の 4,717 万ドルと共に減少推移となった。

< 主要地域別輸出 >

10 月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で 6%減(同 3%減)、金額で横ばい(同 6%増)と、数量減の金額横ばいとなった。太宗の合繊綿は、数量で 6%減(同 2%減)、金額で横ばい(同 10%増)となった。この内、主力のアクリル綿は、最大輸出先の中国は大きく伸びたが、タイ、インドネシア、イランが不振で、全体としては、数量で 3%減(同 1%減)となった。但し、金額では横ばい(同 11%増)となった。

一方、ポリエステル綿は、中国は健闘したが、タイ、EU、米国が落ち込み、数量で 25%減(同 12%減)、金額で 18%減(同横ばい)となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU 向けが大幅に増加し、数量で 42%増(同 10%増)、金額で 29%増(同 14%増)となった。

スフ綿は、南アフリカが大幅増となったが、主力の中国が減少し、数量で 6%減(同 4%減)、金額で 2%増(同 1%減)となった。

繊維品輸出実績(2005年10月)

単位	2005年10月						2005年1月～10月						2004年実績					
	数量	金額		前年同月比		数量	金額		前年同期比		数量	金額		数量	金額			
		百万円	千ドル	数量	ドル		百万円	千ドル	数量	円		ドル	百万円		千ドル			
繊維品総合計																		
原料(綿)合計	35,498	73,272	638,147	90	94	352,096	6,671,221	98	98	427,993	900,766	8,330,992						
スフ綿	5,753	9,268	80,718	100	100	52,728	823,783	97	106	66,597	99,966	923,956						
合繊綿	26,553	2,193	19,096	98	94	269,032	176,023	96	99	321,629	23,267	215,237						
(ポリエステル)	3,718	6,830	59,486	100	100	38,302	624,882	98	110	51,865	73,095	675,403						
(アクリル)	20,771	638	5,557	82	75	206,551	60,740	88	99	243,538	8,007	74,063						
糸 合計	10,135	5,104	44,452	97	100	110,099	454,247	99	111	135,543	52,514	485,070						
人絹糸	1,083	7,721	67,243	87	90	10,610	723,002	100	102	11,482	94,082	870,337						
スフ糸	33	869	7,570	97	98	258	71,863	117	125	372	7,864	72,916						
合繊長糸	7,973	44	380	69	95	89,587	3,305	87	76	110,548	591	5,477						
(ナイロン)	1,705	5,656	49,255	86	85	19,742	558,310	99	100	27,504	73,641	681,155						
(ポリエステル)	2,798	1,266	11,028	65	77	33,469	127,286	89	96	40,805	17,566	162,369						
合繊短糸	350	1,335	11,624	91	88	3,659	14,797	100	108	5,733	16,719	154,685						
綿糸	469	321	2,794	77	92	4,259	27,121	74	85	4,854	4,164	38,476						
綿物合計	99,712	405	3,525	99	110	992,463	29,390	115	114	1,295,836	3,756	34,881						
絹織物	750	28,365	247,039	92	84	6,708	288,722	94	93	7,280	384,270	3,557,638						
スフ織物	6,170	1,152	10,035	127	98	67,340	11,072	113	100	77,844	13,304	123,079						
合繊長織物	47,654	2,170	18,899	91	92	9,987	20,708	104	94	16,372	26,662	246,677						
(ポリエステル)	4,822	291	2,533	49	57	47,857	3,979	77	73	611,549	6,923	64,317						
合繊短織物	37,175	9,444	82,254	94	86	368,797	906,775	93	93	55,195	129,896	1,201,387						
綿織物	14,051	868	7,563	105	104	136,119	86,805	107	103	493,931	11,163	103,187						
毛織物	24,371	7,228	62,951	90	85	256,776	74,173	90	92	166,635	98,356	909,292						
不織布	5,916	3,044	26,514	102	93	44,968	31,900	102	101	354,304	39,208	363,303						
タイヤコード織物	970	8,124	70,755	86	77	478,800	87,901	92	91	58,795	123,887	1,149,181						
コート織物	1,422	4,057	35,331	90	84	44,968	295,929	93	92	574,520	42,026	387,539						
ニット生地		5,017	43,691	90	99	478,800	45,512	101	107	15,129	51,660	477,610						
アパレル		168	1,463	83	89	13,307	2,219	112	127	17,238	2,190	20,254						
その他		3,397	29,586	108	100	15,058	329,974	104	104	41,001	41,001	378,474						
		5,341	46,519	98	98	52,649	484,340		104	61,999	61,999	573,419						
		3,777	32,895	70	70	34,153	314,748		74	53,076	53,076	489,518						
		10,218	88,993	97	97	97,393	896,054		104	112,522	112,522	1,039,786						

(注) 1. 繊維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。

3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類～59類の一部商品。

糸類の輸出は、数量で 13% 減（同横ばい）、金額で 10% 減（同 2% 増）と、数量、金額共に 2 桁の減少となった。

主力の合繊長糸は数量で 14% 減（同 1% 減）、金額で 15% 減（横ばい）となった。その内訳は、ポリエステル糸は、中国を中心とする東アジア、米国、EU が共に振るわず、数量で 9% 減（同横ばい）、金額で 12% 減（同 9% 増）となった。一方、ナイロン糸は、これまで好調であったタイが減少に転じ、中国、フィリピン、EU も不振で、数量で 35% 減（同 11% 減）、金額で 23% 減（同 4% 減）と大幅な減少となった。その他の合繊長糸では、ポリウレタン糸は香港が健闘したが、中国、台湾等その他東アジアが振るわず、数量で 9% 減（同 7% 減）、金額では 24% 減（同 20% 減）となった。

一方、人絹糸は、韓国は大きく伸びたが、中国、EU 向けが減少し、数量で 3% 減（同 17% 増）、金額で 2% 減（同 25% 増）と微減推移となった。

太宗の織物類の輸出は、数量で 8% 減（同 6% 減）、金額で 16% 減（同 7% 減）と数量、金額共に引き続き低調な推移となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で 10% 減（同 10% 減）、金額では 15% 減（同 8% 減）と数量、金額共に 2 桁の減少となった。

地域的には、全体の 72% を占める東アジア向けは、ベトナム、台湾、スリランカが好調に推移したが、中国、香港、韓国、タイ、シンガポール等が不振で、東アジア全体として 10% 減（同 7% 減）となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が揃って増加推移となり、西アジア全体として 26% 増（同 6% 減）と前月の大幅減少から一転して大幅な増加となった。

欧米市場向けは、揃って不振で、EU 向けは 22% 減（同 14% 減）、米国は 44% 減（同 28% 減）と激減した。

ナイロン織物は、数量で 5% 増（同 7% 増）、金額で 4% 増（同 4% 増）と数量、金額共に前月に続き増加推移となった。シェア 81% の東アジア向けは、主力の中国が好調に推移、ベトナムも激増し、香港が減少したが、全体として 18% 増（同 11% 増）となった。一方、シェア 10% の米国は 2% 減（同 3% 減）となった。

綿織物は、数量で 14% 減（同 8% 減）、金額で 23% 減（同 8% 減）と数量、金額共にこの 4 ヶ月続いて 2 桁の減少となった。82% のシェアを占める最大市場の東アジア向けは、タイ、マレーシアは大幅に増加したものの、中心市場の中国、香港、ベトナムが減少し、東アジア全体として 14% 減（同 7% 減）となった。その他の市場では、シェア 11% の米国は 4% 減（同 13% 減）、シェア 3% の EU は 37% 減（同 6% 減）と何れも不振に終わった。

ポリエステル短繊維織物も、数量で横ばい（同 3% 増）、金額で 7% 減（同 2% 増）と数量横ばいの金額減となった。全体の 64% を占める東アジア向けは、タイ、シンガポールが健闘したが、最大仕向国の中国、ベトナム、香港が減少し、東アジア全体として 8% 減（同 2% 減）となった。一方、シェア 34% の民族衣装用の西アジアは、サウジアラビア、クエートが

増勢で推移、アラブ首長国が微減となったものの、西アジア全体として29%増(同14%増)とポリ(長)織物と同様、先月の減少から一転し好調な推移となった。

人絹織物は、数量で9%減(同4%増)、金額で8%減(同6%減)と数量、金額共に不振推移となった。シェア73%の東アジアは、香港、タイ、台湾が好調に推移したが、中国、韓国が不振で、東アジア全体として5%減(同9%増)となった。また、シェア11%の西アジアは、サウジアラビアは健闘したが、アラブ首長国が低調で、全体として10%減(同1%増)となった。一方、欧米市場は、EUが34%減(同15%減)、米国は60%減(同33%減)と揃って大幅な減少となった。

毛織物は、数量で10%減(同7%減)、金額で16%減(同8%減)と数量、金額共に不振推移となった。地域的には、東アジアが97%とほぼ全量を占めている。香港、ベトナム、台湾は好調に推移したが、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国が減少し、東アジア全体として9%減(同8%減)となった。

不織布の輸出は、数量で10%減(同1%増)、金額で1%減(同7%増)となった。全体の62%を占める東アジアは、中国、香港、タイは健闘したが、韓国、台湾が揃って激減し、全体として31%減(同18%減)と大幅な減少となった。一方、欧米市場は、シェア7%のEUは2%増(同25%増)と小幅の増加に止まったが、シェア28%の米国は103%増(同87%増)と前月に続き驚異的な伸びとなり、量的には最大の輸出市場となっている。

コーテッド織物の輸出は、数量で8%増(同4%増)、金額で横ばい(同4%増)となった。全体の80%を占める東アジアは、中国が微減、香港が横ばいとなったが、ベトナム、タイ、インドネシアが好調に推移し、全体として7%増(同1%増)となった。欧米市場は、シェア7%の米国は8%減(同32%増)、一方シェア5%のEUは横ばい(同2%減)推移となった。

ニット生地の輸出は、数量で3%減(同1%増)、金額で2%減(同5%増)と微減推移となった。全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国別では、最大市場の中国、香港、台湾、韓国が減少推移、一方、ベトナム、タイ、インドネシアは増加推移となった。欧米市場向けは、米国は137%増(同86%増)と大幅増となったが、EUは20%減(同15%増)と大きく落ち込んだ。

アパレルの輸出は、金額で30%減(同25%減)と大幅な後退が続いている。

内容的には、布帛製衣類の外衣類は、中国が増加したが、その他の東アジアが不振で、金額で13%減(同6%増)となった。下着類は、中国、韓国は健闘したが、台湾、香港が大幅に減少し、金額で32%減(同24%減)と大きく減少した。

一方、ニット製衣類は、ニット製衣類輸出の主力であった香港向けのニットパネル(最終中国で編み立て後米国向け)の輸出が、2005年からの米国の対中国枠の撤廃により、激減状況が続いており、外衣類は金額で34%減(同50%減)、下着類も56%減(同43%減)と各々大幅な減少となっている。

・原料（綿・糸）の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、主要品目ではビニロン綿、ナイロン綿が増加推移となったものの、主力のアクリル綿、ポリエステル綿、スフ綿がいずれも減少推移となり、全体では6%減の35,498トン、金額については横這いの8,071万ドルとなった。

<糸輸出>

糸は主力の合繊長繊維糸をはじめとして全般的に低調な推移となり、全体では13%減の10,135トン。金額についても10%減の6,724万ドルとなった。

2005年10月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2005年10月				2005年1～10月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	5,753	94	19,096	332	52,728	96	176,023	334
合繊綿	26,553	94	59,486	224	269,032	98	624,882	232
ポリエステル	3,718	75	5,557	149	38,302	88	60,740	159
アクリル	20,771	97	44,452	214	206,551	99	454,247	220
他合繊綿	2,065	122	9,478	458	24,178	109	109,896	454
人絹糸	1,083	97	7,570	699	10,610	117	71,863	677
合繊長糸	7,973	86	49,255	618	89,587	99	558,310	623
ナイロン	1,705	65	11,028	647	19,742	89	127,286	645
ポリエステル	2,798	91	11,624	415	33,469	100	136,585	408
他合長糸	3,470	97	26,604	766	36,377	105	294,439	809
綿糸	469	99	3,525	752	4,259	115	29,390	690

出所：財務省統計

・織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

10月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、ナイロン織物等一部品目は健闘したが、ポリエステル長繊維織物を始め、綿織物、毛織物の主要織物が低調な推移となり、織物トータルで、数量で前年同月比8%減（前年同期比6%減）、金額で16%減（同7%減）となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていないが、ニット生地は微減推移、一方コーテッド織物は増加推移となった。

市場的には、織物トータルで、主力の東アジアは、主要国では、タイ、マレーシアが数量、金額共に前年同月を上回り好調に推移、ベトナムが数量増の金額微減となった以外は低調で、最大市場の中国を始め香港、韓国、台湾、シンガポール、フィリピン、インドネシアは数量、金額共に前年同月を下回った。特に中国は現地調達進展もあつたが、このところの停滞が先行きの懸念材料。

純輸出市場では、西アジアは、サウジアラビアが先月に続き大幅に数量、金額共に増加したが、アラブ首長国は数量増となった金額は微減となった。

一方、欧米市場は、主力のポリエステル長繊維織物、綿織物が共に振るわず、数量、金額共に減少推移となった。

2005年10月の織物の輸出状況

(単位：1,000SM、\$1,000、前年比は数量比%)

	2005年10月			2005年1-10月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	750	10,035	127	6,708	102,045	113
人絹織物	6,170	18,899	91	67,340	190,637	104
スフ織物	690	2,533	49	9,987	36,823	77
合織(長)織物	47,654	82,254	94	467,675	906,775	93
ポリ(長)織物	37,175	62,951	90	368,797	681,795	90
ナイロン織物	4,822	7,563	105	47,857	86,805	107
合織(短)織物	14,051	26,514	102	136,119	294,039	102
ポリ(短)織物	12,439	24,039	100	124,539	270,640	103
綿織物	24,371	70,755	86	256,776	812,951	92
毛織物	5,916	35,331	90	44,968	295,929	93
コートド織物	1,422	29,586	108	15,058	329,974	104
ニット生地	14,873	46,519	97	145,788	484,340	101

(注)1. ポリエステル(長)、ナイロン(長)織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コートド織物の数量単位はトン。

．主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の 2005 年 10 月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは総じて振るわず、全体では前年同月比 30% 減となった。他方、その他の品目については、細幅織物・紐類が微減推移となった他は、敷物、漁網・その他の網・網地、いずれも 2 桁の増加推移となった。

2005 年 10 月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、 金額：前年比 %

	2005 年 10 月		2005 年 1～10 月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	19,170	81	174,506	93
外 衣	12,716	87	105,357	106
下 着	3,504	68	36,670	76
スカーフ・マフラー	743	75	6,631	106
ニット製衣類・付属品	13,725	60	140,242	60
外 衣	6,960	66	47,349	50
下 着	3,792	44	62,795	57
敷 物	2,845	143	26,978	119
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	2,992	170	31,427	120
細 幅 織 物 ・ 紐 類	15,510	99	155,855	104

2005 年 9 月の繊維品輸入概況

1．繊維製品計

9 月の輸入は、金額が円ベース前年同期比 101.8%（前月比は 101.5%）、ドルベース同 100.8%（前月比は 101.2%）、数量(重量)同 98.5%（前月比は 103.5%）と、円・ドル金額が 2 ヶ月連続で増加、数量は 2 ヶ月ぶりに減少した。前月比は、秋冬物の輸入時期のため金額、数量ともに高水準輸入となった。

糸類は、数量で前年同期比 10.0% 減と前月同様に減少幅を戻したものの 4 ヶ月連続で減少、内訳は、絹糸、毛糸、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸、その他の糸全ての品目で 2 ヶ月連続減少した。織物類は同 2.8% 増と 2 ヶ月連続で増加、絹織物、綿織物、黄麻織物、人織(長)織物、メリヤス生地、その他の織物が増加し、毛織物、人織(短)織物が減少した。衣類は同 4.9% 減と増加した前月から再び減少。衣類を除くインテリア用品等二次製品は同 9.0% 増と 11 ヶ月続けて増加した。

前月は円金額が前年同期比 11.2%、ドル金額が 10.8%、数量が 6.6%それぞれ増加したが、

今月は円金額が 1.8%、ドル金額が 0.8%の増加、数量が 1.5%の減少と、ほぼ前月同月並みとなった。内訳を円金額で見ると、二次製品が 12.7%の大幅増となり引き続き増加しており、太宗を占める衣類も金額では 1.2%の増加となったが、織物類は 1.3%、糸類は 11.0%減少し、繊維製品計では 1.8%の増加となった。

2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比 0.9%増のほぼ前月並となり 7 月以降 3 ヶ月連続で 5,000 トン台と 1981 年以来の記録的な低水準となり、前年同月比も 12.7%の減少となった。これは、需要の落ち込みに加え現地紡績からの出し値の上昇や為替の円安によるものと思われる。全体の 90%を占める純綿糸の輸入を前月に比較すると、国別では輸入量 3 位のインドが 14.0%の増加となったものの、主力のパキスタンが 10.5%の 2 桁の減少、2 位のインドネシアも 4.0%のマイナスとなった。番手別では、量的に最も多い 20 番手中心が 8.4%減となったものの、30 番手中心が 10.4%、40 番手以上も 3.6%の増加となった。糸種別ではコマ糸が 1.1%の微増、カード糸は 0.5%の微減とそれぞれほぼ前月並となった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース 12.2%減と前月よりも減少幅が縮小したものの 12 ヶ月連続の減少となった。糸種別に見ると、紡毛糸の輸入が同 2.0%増と 5 ヶ月ぶりの増加となったが、太宗を占める梳毛糸は同 13.0%減と引き続いて減少。国別では、トップシェアの中国が同 13.8%減と 2 ヶ月連続で減少、次ぐマレーシアも 19.5%の減少となった。この他では、台湾、イタリア、ペルーからの輸入が減少した一方、タイ、インドからの輸入が増加した。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 2.6%減、前年同月比も 6.5%の減少となった。主要商品を前月に比べると主力の台湾などからのポリエステル糸が 0.7%の微増ながら 3 ヶ月連続のプラスとなったものの、米国、台湾からのナイロン糸は 4.8%減と 3 ヶ月連続のマイナスとなり、量的に少ない人絹糸も 15.7%の減少となった。一方、人織(短)糸は主力商品の T/C,T/R でインドネシアなどからのポリエステル紡績糸が 0.7%の微減に留まったものの、インドネシア、中国からのマイヤー毛布向けのアクリル紡績糸が 6.1%、ガムテープ用のスフ糸も 21.6%のマイナスとなった。前年同月比も 12.1%の減少となり 20 ヶ月連続の前年割れとなった。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 7.6%の減少となったものの、前年同月比では 4.7%増となり 2 ヶ月連続のプラスとなった。国別で前月に比較すると、全体の約 8 割を占める中国が 7.7%の減少、2 位のインドネシア 7.9%、3 位のパキスタンも 27.7%と主要国が軒並み減少となった。品種別にみても主力のポップリンが 1.6%の減となったのをはじめ、金巾 12.1%、粗布・細布 24.5%それぞれ減少となった。

- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 21.7%減と、3ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少。イタリアからの輸入が同 25.7%減と減少に転じたのに加え、中国からの輸入も前月の増加から一転し 22.9%の大幅減となったことによる。品別では、紡毛織物が同 40.9%減と4ヶ月連続の減少となったのに加えて、主力の梳毛織物も前月大幅増の反動から同 18.9%の大幅減少となった。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 2.4%の減少となったものの、前年同月比は 13.7%増となり11ヶ月連続のプラスとなった。品目別に前月に比較すると、主力商品のポリエステル織物が 7.2%の減、量的に少ないナイロン織物も 9.0%のマイナスとなったが、ポリプロピレン織物などその他が 8.2%のプラスとなったことにより全体のマイナスを縮小した。国別にみると、首位の中国がポリエステルの増加により 4.4%のプラスとなったが、韓国が 1.2%の微減、台湾もポリエステルが大きく減少したことにより 24.9%のマイナスとなった。一方、人織(短)織物は量的に少ないアクリル織物が 8.8%の増加となったものの、主力商品の T/C を中心とするポリエステル織物が 11.7%のマイナス、またガムテープ用のスフ織物も 0.8%の微減ながらマイナスとなり全体では 7.2%の減少、前年同月比も 14.8%マイナスとなった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比枚数で 0.8%増、布帛製衣類は同 4.3%減、身の廻り品は重量ベース 3.6%増となり、衣類計では重量ベース 4.9%減となった。ニット製衣類が2ヶ月連続で増加、布帛製衣類は2ヶ月ぶりに減少、身の廻り品は2ヶ月連続で増加し、衣類計は2ヶ月ぶりに減少となった。

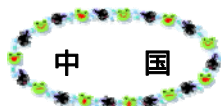
主要国別に見ると

- 中国は、対前年同月比枚数ベースでニット製衣類が 0.9%増加し2ヶ月連続の増加、布帛製衣類は 5.4%減少し2ヶ月ぶりに減少、身の廻り品は重量ベース 4.4%増で11ヶ月連続の増加となった。今年1月から9月までの累計の衣類計(重量ベース)のシェアは 91.0%となった(金額ベースでのシェアは 81.0%)。
- 韓国はニット製衣類が同 18.6%減少、布帛製衣類は 155.3%増と6ヶ月連続での大幅増となり、ニット製衣類が18ヶ月連続の減少、布帛製衣類は6ヶ月連続で増加した。
- イタリアはニット製衣類が同 13.1%減と9ヶ月連続で減少、布帛製衣類も 12.3%減と4ヶ月連続で減少。
- ベトナムはニット製衣類が同 17.0%増と5ヶ月続けて増加、布帛製衣類は 6.8%減と5ヶ月ぶりの減少となった。

- 商品別には、ニット製衣類ではコート、スーツ、ジャケット、ドレス、スカート、アウターシャツ、スポーツウェア、下着類が増加、アンサンブル、セーターが減少。布帛製衣類では紳士用はジャケットが増加、コート、スーツ、アンサンブル、ズボン、下着類が減少、婦人用ではジャケット、ドレス、ブラウスが増加、コート、スーツ、アンサンブル、スカート、ズボン、下着類が減少した。

前月は数量が 6.6%、金額も 10%強の増加となったが、今月は数量が 1.5%減、金額は 2%未満の落ち着いた輸入となった。また、今年の第 3 四半期（1～9月）までで見ると、繊維製品全体では重量ベース前年同期比 1.6%、金額は円ベースで 4.5%、ドルベースで 5.4%とそれぞれ増加した。また、品目別に重量ベースで見ると、糸類が 8.1%の減少、織物が 5.3%の増加、衣類が 0.3%増加、二次製品類が 8.3%増加となった。

今夏の「クールビズ」は紳士物需要の掘り起こしに貢献したが、冬の「ウォームビズ」も効果を上げられるか注目される。秋冬物の立ち上がりを見ると、10月までは関東地方をはじめ全国的に気温が高く、天候も不順な日が多かったため動きが悪く、11月以降の回復が期待される。



2005 年 1～9 月の繊維品貿易・輸出は大幅増、 輸入は前年割れ

【輸 出】

- 23%増の 799 億 8,086 万ドル、9 月単月は 22%増 -

このほど発表された中国の海関統計によると、2005 年 1～9 月の中国の繊維品輸出は、23%増の 799 億 8,086 万ドルとなった。

単月の輸出状況を見ると、枠フリーの時代に入り、1 月は 29%増、2 月は 34%増と大幅に伸び、3 月は一旦 4%増と大きく減速したが、4 月は 16%増、5 月は 23%増、6 月は 29%増、7 月は 24%増、8 月は 34%増、9 月は 22%増で、9 月は 8 月に比較すればかなり低い伸び率になっているが、それでも依然大幅な増加が続いていることに変わりはない。

< 品目別輸出状況 >

品目別では、中国の繊維品輸出全体の 61%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品の輸出は 22%増の 490 億 8,636 万ドルとなった。内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が 20%増の 226 億 5,659 万ドル、また布帛製衣料品及び同付属品の輸出は 24%増の 264 億 2,977 万ドルとなっている。

2005年9月の中国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出				
	2004 年実績		2005 年 1 月 ~ 9 月		2004 年実績		2005 年 1 月 ~ 9 月		前年比
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計	TON	23,001,764	3,891,010	6,632,920	3,197,677	4,962,913	96	88	97
スフ綿	TON	476,381	172,961	125,129	358,381	98	104		
合繊綿	TON	1,375,307	992,584	657,550	1,081,515	84	103		
(ポリエステル)	TON	531,489	507,255	278,523	339,032	68	81		
(アクリル)	TON	775,295	459,536	360,044	682,061	101	116		
糸合計	TON	3,935,831	1,717,755	1,257,185	3,092,750	94	102		
人絹糸	TON	83,019	29,258	21,305	61,666	92	96		
スフ糸	TON	93,698	32,122	21,881	71,576	85	95		
合繊長繊維糸	TON	1,544,504	714,316	462,282	1,165,258	82	99		
(ナイロン)	TON	557,874	259,232	188,991	495,515	93	117		
(ポリエステル)	TON	573,417	369,166	219,012	391,418	74	88		
合繊短繊維糸	TON	416,877	172,837	124,806	312,751	90	93		
綿糸	TON	1,531,898	714,472	586,575	1,255,226	109	109		
繊維物合計	千LM	6,254,606	5,059,862	3,377,256	4,413,022	92	98		
絹織物	千LM	115,424	40,805	29,748	83,016	108	105		
人絹織物	千LM	110,117	86,658	63,548	91,517	103	113		
スフ織物	千LM	125,482	78,366	45,179	77,242	79	84		
合繊長繊維織物	千LM	2,066,586	2,241,724	1,489,505	1,518,114	88	99		
(ナイロン)	千LM	612,423	797,863	504,785	448,456	84	98		
(ポリエステル)	千LM	1,063,056	1,102,705	652,948	758,922	77	95		
合繊短繊維織物	千LM	884,220	793,149	526,534	599,242	91	91		
綿織物	千LM	2,174,494	1,612,068	1,111,046	1,549,425	99	101		
毛織物	千LM	610,479	77,059	54,052	408,827	96	91		
不織布	TON	408,535	113,385	100,303	361,847	119	118		
タイヤコード織物	TON	79,860	22,211	13,559	52,850	86	94		
コーテッド織物	TON	964,618	292,959	195,085	755,291	90	105		
ニット生地	TON	1,813,034	463,329	341,925	1,399,391	99	104		
ニット製衣料		641,839			498,413		102		
布帛製衣料		792,205			577,982		101		
その他		1,478,315			1,188,470		107		

	輸 入				輸 出				
	2004 年実績		2005 年 1 月 ~ 9 月		2004 年実績		2005 年 1 月 ~ 9 月		前年比
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計	TON	79,980,859	259,332	845,274	143	139			
スフ綿	TON	21,522	12,348	163	158				
合繊綿	TON	228,992	172,554	166	194				
(ポリエステル)	TON	154,174	143,454	177	202				
(アクリル)	TON	2,995	1,450	104	122				
糸合計	TON	3,790,410	1,045,884	118	117				
人絹糸	TON	181,513	51,238	112	110				
スフ糸	TON	100,360	23,854	113	136				
合繊長繊維糸	TON	652,942	275,106	179	182				
(ナイロン)	TON	199,126	57,587	146	171				
(ポリエステル)	TON	325,626	188,370	206	243				
合繊短繊維糸	TON	744,214	252,775	99	110				
綿糸	TON	1,081,650	362,223	110	104				
繊維物合計	千LM	11,308,162	12,252,560	115	118				
絹織物	千LM	516,471	210,373	121	129				
人絹織物	千LM	23,449	26,259	68	74				
スフ織物	千LM	497,386	682,680	120	119				
合繊長繊維織物	千LM	3,572,019	4,603,740	112	112				
(ナイロン)	千LM	101,617	183,056	93	113				
(ポリエステル)	千LM	2,959,235	3,842,153	111	111				
合繊短繊維織物	千LM	1,689,563	2,491,035	116	129				
綿織物	千LM	4,307,644	3,991,572	119	118				
毛織物	千LM	417,770	78,290	113	112				
不織布	TON	260,494	117,365	152	154				
タイヤコード織物	TON	201,663	58,349	150	189				
コーテッド織物	TON	818,280	340,845	134	142				
ニット生地	TON	2,703,845	695,450	113	120				
ニット製衣料		22,656,590			120				
布帛製衣料		26,429,766			124				
その他		10,966,375			134				

出所:中国海関統計

織物類の輸出は、数量で15%増の122億4,695万メートル、金額で18%増の113億816万ドルと順調に推移している。

内訳は、前年は苦戦した最大品目の綿織物が、数量で19%増の39億9,157万メートル、金額で18%増の43億764万ドルと好調に推移、一方ポリエステル長繊維織物は、数量で11%増の38億4,215万メートル、金額で11%増の29億5,924万ドルと依然2桁の伸びを維持しているが、EUのダンピング実施の影響もあり、伸び率は昨年と比べ大きく鈍化している。

その他の主要織物では、合繊短繊維織物が数量で16%増の24億9,104万メートル、金額で29%増の16億8,956万ドル、ニット生地が、数量で13%増の69万5,450トン、金額で20%増の27億385万ドルとなっている。

糸関係の輸出は、特に合繊長繊維糸の増加が著しく、全体として数量で18%増の104万5,884トン、金額で17%増の37億9,041万ドルとなっている。内訳では、最大品目の綿糸は、数量で10%増の36万2,223トン、金額で4%増の10億8,165万ドル、合繊短繊維糸は、数量で1%減の25万2,775トン、金額で10%増の7億4,421万ドルとなっているが、合繊長繊維糸は国内での大增産を背景に、数量で79%増の27万5,106トン、金額で82%増の6億5,294万ドルと数量、金額共に飛躍的に増加しているのが注目される。合繊長繊維糸のうち、特にポリエステル長繊維糸は、数量で106%増の18万8,370トン、金額で143%増の3億2,563万ドルと激増しており、ナイロン糸も数量で46%増の5万7,587トン、金額で71%増の1億9,913万ドルと大幅な伸びとなった。

綿類の輸出は、綿花の輸出は激減しているが、羊毛及びポリエステル綿、スフ綿の輸出が大きく伸び、数量で43%増の25万9,332トン、金額で39%増の8億4,527万ドルと大幅に増加している。

< 国別輸出状況 >

地域別では東アジアがシェア42%(横ばい)を占め、西アジアが6%(20%増)、ヨーロッパが24%(56%増)、北米が17%(80%増)、中米が2%(2%減)、南米が2%(21%増)、アフリカが4%(26%増)、大洋州が2%(15%増)の市場構成となっている。

国別では、1位EU(136億9,424万ドル:65%増)、続いて日本(125億4,784万ドル:8%増)、米国(124億4,735万ドル:83%増)、香港(105億417万ドル:15%減)、韓国(28億5,596万ドル:5%減)の順で、この5大市場で全体の輸出の65%のシェアを占めているが、予想されたとおり、特に今年より枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に突出した伸びとなっている。

主要輸出品目別に国別輸出先を見ると、衣料品については、ニット製衣料品は、トップ市場は日本(47億8,792万ドル:12%増)、続いてEU(39億8,852万ドル:97%増)、米国(36億4,895万ドル:105%増)、香港(21億6,392万ドル:41%減)、韓国(7億4,596万ドル:26%減)、ロシア(7億3,376万ドル:32%増)の順となっている。また、布帛製衣料品の輸出先は1位がEU(58億7,934万ドル:66%増)、日本(56億5,785万ドル:3%増)、米国(51億6,476万ドル:94%増)、香港(23億7,549万ドル:25%減)、ロシア(12億2,255万ドル:83%増)の順となっている。

織物類については、綿織物の主要輸出先は、香港（8億3,288万メートル：横ばい）、韓国（2億7,371万メートル：27%増）、バングラデッシュ（2億7,030万メートル：27%増）、ベニン（2億5,308万メートル：82%増）、日本（2億1,062万メートル）、EU（2億38万メートル：86%増）の順となっている。

合繊短繊維織物は、第1位が香港（3億5,991万メートル：6%減）で、以下韓国（1億9,071万メートル：2%増）、アラブ首長国（1億1,806万メートル：2%増）、EU（1億1,213万メートル：260%増）、ミャンマー（1億1,145万メートル：54%増）の順となっている。

一方、ポリエステル長繊維織物の主要輸出先は、アラブ首長国（4億4,085万メートル：8%減）、EU（3億3,073万メートル：21%減）、イラン（3億344万メートル：1%減）、ブラジル（2億758万メートル：13%増）、香港（1億6,688万メートル：10%減）、パキスタン（1億4,853万メートル：43%増）、サウジアラビア（1億3,259万メートル：11%増）、米国（1億3,257万メートル：32倍増）の順となっている。EUの減少は、この3月中旬のダンピング関税賦課の影響であるが、対照的に米国向けが激増しており、9月からその一部はセーフガード対象品目となっている。

【輸 入】

- 3%減と前年割れの推移が続く -

輸入は、昨年は、特に前半に、綿花の輸入が激増したこともあり、大きく伸びたが、今年はこの綿花の輸入が大きく減少に転じており、またその他原料、織物類等の輸入も国内の増産を背景に総じて低調で、全体では前年同期比3%減の173億293万ドルに止まっている。

この結果、中国の2005年1～9月の繊維品貿易収支の黒字額は前年比33%増の626億7,793万ドルとなり、中国の外貨獲得の最大の貢献産業となっている。このうち主要国との繊維品貿易をみると、日本とは97億3,797万ドル、香港とは91億8,103万ドル、米国とは108億4,532万ドル、EUとは126億285万ドルの各々の黒字となり、この4カ国で中国の繊維品貿易全体の黒字額の68%を占めている。

< 品目別輸入状況 >

輸入の品目別内訳では、まず綿関係では、綿花の米国からの輸入が減少していることもあり、数量で4%減の319万7,677トン、金額で12%減の49億6,291ドルと後退している。合繊綿の輸入も量的には低調で、数量で16%減の65万7,550トン、但し、金額では3%増の10億8,152万ドルとなった。合繊綿の内訳は、アクリル綿が数量で1%増の36万4トン、金額で16%増の6億8,206万ドルと堅調に推移しているが、ポリエステル綿は数量で32%減の27万8,523トン、金額で19%減の3億3,903万ドルと大きく後退している。

糸類の輸入は、数量で6%減の125万7,185トン、金額で2%増の30億9,275万ドルと数量減の金額微増となっている。品目別では、最大品目の綿糸の輸入は、数量で9%増の58万6,575トン、金額で9%増の12億5,523万ドルと数量、金額共に増勢推移となった。合繊長繊維糸は、

数量で 18%減の 46 万 2,382 トン、金額で 1%減の 11 億 6,526 万ドルで、この内訳は、太宗のポリエステル系は数量で 26%減の 21 万 9,012 トン、金額で 12%減の 3 億 9,142 万ドル、一方、ナイロン系は、数量で 7%減の 18 万 8,991 トン、但し金額では 17%増の 4 億 9,552 万ドルとなっている。また合繊短繊維系は数量で 10%減の 12 万 4,806 トン、金額で 7%減の 3 億 1,275 万ドルとなった。

一方、織物類の輸入については、数量で 8%減の 33 億 7,726 万メートル、金額で 2%減の 44 億 1,302 万ドルとなっている。

品目別では、最大輸入品目の合繊長繊維織物は数量で 12%減の 14 億 8,951 万メートル、金額で 1%減の 15 億 1,811 万ドルとなった。内訳は、ポリエステル(長)織物が、数量で 23%減の 6 億 5,295 万メートル、金額で 5%減の 7 億 5,892 万ドル、ナイロン織物は、数量で 16%減の 5 億 479 万メートル、金額で 2%減の 4 億 4,846 万ドルとなった。綿織物は数量で 1%減の 11 億 1,105 万メートル、金額で 1%増の 15 億 4,943 万ドル、また合繊短繊維織物は数量で 9%減の 5 億 2,653 万メートル、金額で 9%減の 5 億 9,924 万ドルとなった。

その他品目では、ニット生地が数量で 1%減(34 万 1,925 トン)、金額で 4%増(13 億 9,939 万ドル)、コーテッド織物は数量で 10%減(19 万 5,085 トン)、金額で 5%増(7 億 5,529 万ドル)と各々数量減の金額増となっている。

衣料品の輸入は、布帛製衣料品が 1%増の 5 億 7,798 万ドル、ニット製衣料品は 2%増の 4 億 9,841 万ドルと各々微増となっている。

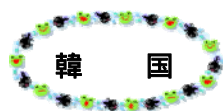
< 国別輸入状況 >

国別輸入では、日本(28 億 987 万ドル：2%減)、台湾(25 億 1,788 万ドル：6%減)、韓国(22 億 2,402 万ドル：1%増)、米国(16 億 203 万ドル：23%減)、香港(13 億 2,314 万ドル：7%減)、EU(10 億 9,139 万ドル：15%増)がベスト 6 で、加工用の原材料を中心に、これら 6 カ国からの輸入で全体の 67%を占めている。因みに州別構成では、東アジアからの輸入が全体の 72%(横ばい)を占め、北米が 9%(23%減)、欧州が 7%(15%増)、大洋州が 6%(6%増)となっている。

主要輸入品目別に国別輸入先を見ると、合繊綿の輸入は、金額ベースでは、日本(2 億 9,232 万ドル：25%増)、台湾(2 億 3,434 万ドル：20%減)、韓国(2 億 1,648 万ドル：8%減)、EU(8,743 万ドル：24%増)、タイ(8,738 万ドル：22%増)の順でこの 5 カ国で全体の 85%を占めている。また数量ベースでは、台湾(17 万 966 トン：35%減)、韓国(14 万 4,567 トン：23%減)、日本(13 万 8,756 トン：8%増)、タイ(6 万 1,473 トン：2%減)、EU(4 万 3,532 トン：6%増)で、日本と EU は増加しているが、その他は減少推移となっている。一方、合繊長繊維系の輸入は、金額ベースで、台湾(5 億 1,349 万ドル：10%減)がトップで、続いて韓国(2 億 2,319 万ドル：8%減)、日本(1 億 725 万ドル：2%減)の順で、この 3 カ国で全体の 72%を占めており、何れも減少推移となった。また数量ベースでも、台湾(26 万 9,802 トン：23%減)、韓国(7 万 6,486 トン：27%減)、日本(1 万 6,285 トン：3%減)と各々減少している。

織物類の輸入は上記3国と香港の4カ国からの輸入が圧倒的なシェアを占めている。

合繊長繊維織物については、1位が台湾（6億6,348万メートル：20%減）、続いて韓国（3億4,390万メートル：12%増）、日本（1億8,939万メートル：7%減）、香港（1億177万メートル：26%減）の順で、この4カ国で全体の87%を占め、韓国を除き何れも減少推移となっている。合繊短繊維織物の輸入も、台湾（1億7,416万メートル：9%減）、韓国（1億1,701万メートル：6%減）、日本（7,577万メートル：5%減）、香港（5,346万メートル：26%減）の順で、この4カ国で80%を占めているが何れも低調な推移となっている。また綿織物の輸入は、香港（2億9,863万メートル：1%増）、日本（1億1,599万メートル：10%減）、パキスタン（8,928万メートル：11%増）、台湾（8,704万メートル：7%減）、韓国（6,826万メートル：9%増）の順となっている。



2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は苦戦、 輸入は増加推移

< 輸出は前年比8%減の103億5,513万ドル >

韓国の通関統計によれば、2005年1～9月の繊維品輸出は、クオータフリーによる中国等の躍進の影響もあり、糸、織物、衣料品類の不振を中心に、前年同期比8%減の103億5,513万ドルと苦戦が続いている。

市場的にはシェア53%を占める東アジア向けは、1%増の55億3,628万ドルの微増となったが、17%を占める北米が19%減の17億9,424万ドル、13%を占める欧州が15%減の12億9,920万ドルと欧米市場向けが枠撤廃による影響もあり、各々2桁の大幅減少となっている。

主要国では、第1位市場の中国は6%増の21億9,845万ドルと好調に推移し、続いて米国が18%減の16億9,540万ドル、EUが20%減の8億9,704万ドル、香港が12%減の7億479万ドル、ベトナムが1%減の6億315万ドル、日本が3%増の5億5,409万ドル、インドネシアが8%増の4億6,368万ドル、アラブ首長国が10%減の2億6,396万ドルの順となっている。

品目別輸出では、原料関係では、綿類の輸出は、数量で11%減の53万743トンだったが、単価のアップにより、金額では3%増の7億1,738万ドルとなった。太宗品目はポリエステル綿を中心とする合繊綿で、数量で11%減の51万1,123トン、但し金額では3%増の6億7,661万ドルと数量減の金額増となった。合繊綿の最大市場は中国で、数量で20%減の14万4,807トン、金額で7%減の2億644万ドルと数量、金額共に低調推移、続く市場の米国は数量で8%減の9万4,249トン、金額で14%増の1億1,421万ドル、第3位のEUは数量で9%減の8万9,344トン、金額で5%増の1億1,257万ドルと何れも数量減の金額増となった。この3カ国で全体（数量ベース）の64%を占めている。

2005年1～9月の韓国の繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸 入				輸 出				前年比 数量 金額
	2004年実績		2005年(1～9)		2004年実績		2005年(1～9)		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計		6,683,284		5,086,877		10,355,134		9,210	103
原料(綿)合計	TON	378,948	811,682	314,181	600,740	530,743	717,378	89	103
スフ綿	TON	46,471	119,032	36,448	91,210	7,713	25,317	84	109
合繊綿	TON	17,971	40,892	15,104	36,402	511,123	676,614	89	103
(ポリエステル)	TON	3,314	6,600	2,640	4,456	409,210	504,324	88	104
(アクリル)	TON	6,556	14,181	6,209	14,699	75,262	130,664	85	93
糸合計	TON	510,476	1,452,313	386,162	1,074,017	347,180	1,076,619	80	92
人絹糸	TON	42,335	148,466	24,628	99,362	959	7,268	104	109
スフ糸	TON	16,506	43,137	12,682	33,913	3,472	20,400	124	145
合繊長繊維糸	TON	104,210	309,302	91,641	264,892	299,308	856,762	78	90
(ナイロン)	TON	20,941	75,776	15,901	66,775	44,399	155,262	97	123
(ポリエステル)	TON	68,022	113,398	63,479	110,918	203,370	421,115	75	94
合繊短繊維糸	TON	142,142	334,372	105,583	260,947	12,907	65,056	93	95
綿糸	TON	194,005	534,235	143,315	345,525	26,943	88,199	109	104
織物合計		1,015,602		780,674		2,399,603		94	
絹織物	TON	2,152	94,621	1,601	72,999	1,356	101,646	106	110
人絹織物	千SM	4,553	13,272	3,098	8,609	172,718	123,040	86	97
スフ織物	TON	7,971	46,145	4,245	25,581	9,393	96,246	80	87
合繊長繊維織物	千SM	250,897	140,601	185,932	109,114	1,602,834	1,353,013	81	92
(ナイロン)	千SM	7,337	13,715	3,191	7,638	111,858	91,008	61	85
(ポリエステル)	千SM	177,674	84,708	156,456	70,324	1,181,067	1,094,475	84	91
合繊短繊維織物	TON	51,178	179,608	35,765	124,963	28,182	169,833	87	97
綿織物	TON	84,194	381,871	74,939	319,698	51,520	474,790	96	98
毛織物	TON	3,507	124,368	2,715	92,098	3,578	70,705	100	106
不織布	TON	22,932	101,664	21,073	90,697	54,854	295,979	116	119
タイヤコード織物	TON	12,129	45,427	9,952	42,541	60,806	223,405	111	124
コーテッド織物	TON	7,804	59,373	6,782	50,226	99,843	659,138	80	87
ニット生地			78,802		59,071		2,027,567		97
ニット製衣料			937,812		637,462		1,022,952		77
布帛製衣料			1,656,922		1,290,809		743,052		70
その他			523,707		460,640		1,189,442		105

出所：韓国通関統計

糸類の輸出は、数量で 20%減の 34 万 7,180 トン、金額で 8%減の 10 億 7,662 万ドルと数量、金額共に減少した。太宗品目は合繊長繊維糸で、ポリエステル長糸を中心に、数量で 22%減の 29 万 9,308 トン、金額で 10%減の 8 億 5,676 万ドルとなった。合繊長繊維糸の最大市場も中国で、数量で 23%減の 6 万 7,227 トン、金額で 4%減の 2 億 222 万ドル、第 2 位は EU で、数量で 25%減の 3 万 9,141 トン、金額で 12%減の 1 億 1,772 万ドルと共に大きく減少したが、第 3 位の米国は数量で 10%増の 3 万 4,105 トン、金額で 32%増の 8,541 万ドルと数量、金額共に大幅に増加した。

最大輸出品目の織物類の輸出は金額で 6%減の 23 億 9,960 万ドルと不振推移となっている。

中でも韓国繊維品輸出の代表的品目でありその動向が注目されるポリエステル(長)織物は、数量で 16%減の 11 億 8,107 万 SM、金額で 9%減の 10 億 9,448 万ドルと依然低調な推移となっている。

ポリエステル長繊維織物の主要輸出国別は、1 位が中国で 14%減の 1 億 4,401 万 SM、2 位は枠がフリーになった米国で 14%増の 1 億 1,299 万 SM、3 位がサウジアラビアで 9%減の 1 億 163 万 SM、4 位のアラブ首長国派 17%減の 9,958 万 SM、5 位の香港は 5%減の 8,194 万 SM で、米国を除き何れも不振推移となっている。その他主要市場は、EU (7,569 万 SM : 横ばい)、インドネシア (6,296 万 SM : 23%減)、トルコ (6,237 万 SM : 5%減) 等となっている。

その他主要織物類では、綿織物が 4%減の 5 万 1,520 トン、合繊短繊維織物が 13%減の 2 万 8,182 トン、人絹織物が 14%減の 1 億 7,272 万 SM、ニット生地は金額で 3%減の 20 億 2,757 万ドルとなっている。

衣料品の輸出は、布帛製衣料品が 30%減の 7 億 4,305 万ドル、一方、ニット衣料品の輸出も 23%減の 10 億 2,295 万ドルと何れも大幅な減少推移となっている。

< 輸入は 3%増の 50 億 8,688 万ドルと若干の増加推移 >

一方、韓国の繊維品の輸入は、前年同期比 3%増の 50 億 8,688 万ドルと若干の増加推移となっている。

地域別、国別では、シェア 75%を占める東アジアは 4%増の 38 億 3,468 万ドル、シェア 13%の西アジアが 6%増の 6 億 6,740 万ドル、シェア 7%の北米は 9%増の 3 億 4,949 万ドルとなっている。国別では、最大輸入国の中国は 9%増の 26 億 3,481 万ドル、EU が 6%増の 5 億 9,822 万ドル、米国が 9%増の 3 億 2,407 万ドル、日本が 5%減の 3 億 1,768 万ドル、インドが 27%減の 1 億 9,286 万ドル、インドネシアが 4%増の 1 億 6,017 万ドル、台湾が 2%減の 1 億 3,637 万ドル、オーストラリアが 21%減の 1 億 2,402 万ドルとなっている。

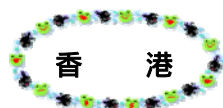
品目別輸入では、綿類の輸入は数量で 11%増の 31 万 4,181 トン、金額で 4%減の 6 億 74 万ドルと数量増の金額減となった。その大半は天然繊維原料の輸入である。

糸類の輸入は数量で横ばいの 38 万 6,162 トン、金額で 2%減の 10 億 7,402 万ドルと数量

横ばいの金額減となった。内訳は、最大品目の綿糸の輸入が数量で6%減の14万3,315トン、金額で20%減の3億4,553万ドルと大きく減少したが、合繊長繊維糸は、ポリエステル糸が大きく伸び、数量で19%増の9万1,641トン、金額で16%増の2億6,489万ドルと2桁の増加となった。その他の糸では、合繊短繊維糸が数量で4%増の10万5,583トン、金額で11%増の2億6,095万ドル、人絹糸は数量で24%減の2万4,628トン、金額で12%減の9,936万ドルとなっている。

織物類の輸入は金額で4%増の7億8,067万ドルとなった。主要織物の内訳は、綿織物の輸入が数量で23%増の7万4,939トン、金額で17%増の3億1,970万ドルと大きく増加、その他の織物では、合繊長繊維織物が数量で4%減の1億8,593万SM、金額で2%増の1億911万ドル、合繊短繊維織物は数量で6%減の3万5,765トン、金額で7%減の1億2,496万ドルとなっている。

また衣料品の輸入は、ニット製衣料品が11%減の6億3,746万ドルと大幅に減少しているが、逆に布帛製衣料品は10%増の12億9,081万ドルと2桁の増加推移となっている。



2005年1～9月の繊維品貿易・輸出入共に堅調に増加

香港の2005年1～9月の繊維品貿易は、輸出が6%増の295億9,259万ドル、輸入も5%増の235億6,721万ドルと、輸出入共に今年に入って堅調な増加推移となっている。

<輸出>

地域別の輸出先をみると、全体の44%を占める東アジア向けが2%減の130億3,388万ドル、28%を占める北米が16%増の79億2,043万ドル、22%を占めるヨーロッパが18%増の65億9,251万ドルで、この3地域で全体の93%を占めているが、東アジアが減少しているのに対し、今年から枠がフリーとなった欧米向けが中国ほどではないが、共に2桁の増加を記録し、健闘している。

主要国別輸出では、1位の中国は4%減の88億6,273万ドルと減少しているが、続く米国が16%増の73億865万ドル、EUが19%増の62億8,417万ドルと増加、以下日本が2%減の12億3,008万ドル、カナダが22%増の6億1,178万ドル、オーストラリアが4%増の5億254万ドル等となっている。

品目別輸出では、全体の輸出の64%を占める最大輸出品目の衣料品は、ニット製衣料品が12%増の97億5,313万ドル、布帛製衣料品が11%増の92億8,746万ドルで共に2桁の増加と好調に推移しており、全体の繊維品輸出を牽引している。

織物類の輸出は、数量で7%減の62万3,594トン、金額で2%減の37億7,766万ドルと低調な推移となっている。織物の素材別では、最大輸出品目の綿織物は数量で1%増の41万

4,076 トン、金額でも 1% 増の 23 億 4,377 万ドルと数量、金額共に微増推移となった。一方、合繊長繊維織物は、主力のポリエステル長繊維織物が数量で 19% 減の 5 万 7,241 トン、金額で 8% 減の 3 億 1,483 万ドル、ナイロン織物が数量で 33% 減の 4 万 3,768 トン、金額で 20% 減の 2 億 215 万ドルと大幅に減少し、合繊長繊維織物全体として、数量で 22% 減の 12 万 26 トン、金額で 9% 減の 6 億 4,469 万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。

原料関係も不振で、糸類の輸出は、数量で 3% 減の 74 万 5,907 トン、金額で 8% 減の 27 億 8,849 万ドルとなった。主要品目別では、綿糸が数量で 3% 増の 49 万 2,856 トン、金額で 10% 減の 13 億 9,070 万ドル、合繊長繊維糸は数量で 12% 減の 11 万 2,080 トン、金額で 6% 減の 4 億 5,925 万ドル、合繊短繊維糸は数量で 15% 減の 8 万 176 トン、金額で 12% 減の 3 億 4,487 万ドルとなった。また綿類の輸出は、合繊綿の輸出が激減し、全体として、数量で 40% 減の 10 万 5,058 トン、金額で 23% 減の 1 億 5,183 万ドルとなった。

< 輸 入 >

一方、輸入については、地域別では、92% と圧倒的なシェアを占める東アジアからの輸入が 5% 増の 215 億 7,355 万ドル、6% のシェアのヨーロッパが 2% 増の 14 億 8,751 万ドルで、両市場から輸入が 98% を占め、共に増加傾向で推移している。

国別では 1 位が中国で 13% 増の 166 億 3,246 万ドル（シェア 71%）、2 位は香港（注：香港の統計では、第三国（ほとんどが中国と思われる）に原材料を輸出し完成品を輸入した場合、その付加価値部分は、中国からの輸入となるが、原材料輸出部分は香港の輸入（再輸入）として分類される。）で 5% 減の 14 億 1,480 万ドル、3 位は EU で 1% 増の 13 億 9,392 万ドル、4 位は台湾で 11% 減の 12 億 4,414 万ドル、5 位は日本で 15% 減の 6 億 6,056 万ドル、6 位は韓国で 14% 減の 6 億 5,658 万ドルとなっている。

品目別輸入では、全体の 55% を占める最大品目の衣料品の輸入は、ニット製衣料品が 7% 増の 68 億 6,659 万ドル、布帛製衣料品の輸入が 14% 増の 60 億 8,872 万ドルと何れも高水準の推移となっている。

その他の輸入は総じて低調で、織物類の輸入は、数量で 9% 減の 60 万 1,060 トン、金額で 2% 減の 36 億 259 万ドルとなった。品目別では、最大品目の綿織物の輸入は数量で 3% 増の 37 万 4,106 トン、金額で 5% 増の 19 億 3,399 万ドルと数量、金額共に増加した。一方、合繊長繊維織物の輸入は、数量で 30% 減の 12 万 9,804 トン、金額で 14% 減の 7 億 5,855 万ドルと大幅な減少となった。この内訳は、ポリエステル長繊維織物の輸入は数量で 29% 減の 6 万 1,238 トン、金額で 16% 減の 3 億 6,061 万ドル、ナイロン織物は、数量で 36% 減の 5 万 174 トン、金額で 18% 減の 2 億 5,786 万ドルと何れも大きく減少している。

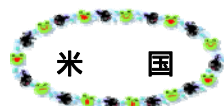
2005年1～9月の香港の繊維品輸出入状況

	輸 入				輸 出				前年比	
	2004年実績		2005年(1～9)		2004年実績		2005年(1～9)			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計	TON	272,072	356,768	163,432	231,918	76	84	105		
スフ綿	TON	12,259	42,022	10,568	38,357	116	122			
合繊綿	TON	138,100	171,696	61,739	91,880	55	68			
(ポリエステル)	TON	127,184	138,505	54,775	66,347	52	60			
(アクリル)	TON	5,450	11,738	4,440	10,535	105	120			
糸合計	TON	1,084,510	4,213,991	822,787	3,224,369	98	96			
人絹糸	TON	10,898	65,811	8,050	48,682	99	103			
スフ糸	TON	24,558	132,401	19,343	115,181	102	116			
合繊長繊維糸	TON	184,351	703,445	124,829	502,425	87	94			
(ナイロン)	TON	74,816	258,063	58,145	219,894	103	117			
(ポリエステル)	TON	70,727	158,243	40,701	94,600	72	77			
合繊短繊維糸	TON	127,318	493,871	87,384	365,937	84	90			
綿糸	TON	676,679	2,019,087	539,222	1,471,053	95	93			
織物合計	TON	902,200	5,172,404	601,060	3,602,593	91	98			
絹織物	TON	4,321	161,624	3,211	122,305	110	110			
人絹織物	TON	17,201	162,419	11,170	109,241	86	89			
スフ織物	TON	6,249	65,329	4,221	42,072	90	86			
合繊長繊維織物	TON	234,161	1,151,849	129,804	758,553	70	86			
(ナイロン)	TON	96,907	403,547	50,174	257,858	64	82			
(ポリエステル)	TON	111,189	566,705	61,238	360,605	71	84			
合繊短繊維織物	TON	76,809	454,818	53,942	333,083	96	100			
綿織物	TON	514,555	2,674,951	374,106	1,933,986	103	105			
毛織物	TON	8,428	205,999	6,850	174,310	99	104			
不織布	TON	27,374	167,985	19,782	127,807	97	103			
タイヤコード織物	TON	3,717	13,362	2,199	9,690	89	115			
コーテッド織物	TON	134,949	487,911	88,934	385,072	87	107			
ニット生地	TON	542,944	2,740,636	399,003	2,017,209	98	99			
ニット製衣料			8,816,510		6,866,587		107			
布帛製衣料			7,164,803		6,088,717		114			
その他			1,285,550		1,013,249		106			

単位:1000ドル

出所:香港通関統計

原料関係では、糸類は、綿糸の輸入が数量で5%増の53万9,222トン、金額で7%減の14億7,105万ドル、合繊長繊維糸は、数量で13%減の12万4,829トン、金額で6%減の5億243万ドル、合繊短繊維糸が、数量で16%減の8万7,384トン、金額で10%減の3億6,594万ドルとなり、糸全体では、数量で2%減の82万2,787トン、金額は4%減の32億2,437万ドルと数量、金額共に減少した。また綿類の輸入は、合繊綿の輸入が大幅な減少推移となり、綿類全体として数量で24%減の16万3,432トン、金額で16%減の2億3,192万ドルとなった。



2005年9月の繊維品輸入・引続き大幅に増加

中国からの輸入を中心に大幅に増加

2005年の米繊維品輸入は、中国からの輸入を中心に、引続き大幅に増加している。

2005年9月の米繊維品輸入は46億1,700万SME(平方メートル換算)で前年同月比9.6%増と、前月(10.4%増)に続き大幅な増加となった。このうち、ノン・アパレル(糸、織物、その他繊維製品)の輸入は12.0%増となり、今年では2月の17.3%増に続く大幅な伸び率を示し、またアパレルは8.9%増で14カ月連続の増加を記録した。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,704	0.7	16,104	0.4	32,810	0.2
2002年	21,028	25.9	17,256	7.2	38,285	16.7
2003年	23,362	11.1	18,864	9.3	42,226	10.3
2004年	26,976	15.5	19,652	4.2	46,628	10.4
2005年	21,599	5.9	16,730	12.0	38,330	8.5
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	22.2	3,968	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	1.4	2,065	19.5	4,552	7.1
7月	2,352	0.1	1,991	7.3	4,344	3.3
8月	2,592	8.2	2,160	13.3	4,752	10.4
9月	2,489	12.0	2,127	8.9	4,617	9.6

注：前年比は増減、は減少を示す(以下の表同じ)。出所：米商務省(DOC)

地域別では、最大供給国の中国からの輸入が 45.5% 増と驚異的な増加を続けている。また、パキスタンが 10.9% 増、インドが 14.4% 増と、アジア諸国からの輸入が活況を呈している。一方、カナダからの輸入は 12.9% 減、メキシコは 7.4% 減と、NAFTA（北米自由貿易協定）パートナーからの輸入は低迷している。

2005 年 1～9 月の米繊維品輸入は 383 億 3,000 万 SME で前年同期比 8.5% 増となった。このうち、ノン・アパレルが 5.9% 増、アパレルが 12.0% 増となった。米繊維品輸入は、アパレル主導で増加している。

1～9 月の地域別輸入状況は、以下の通り。

アジア地域では、いわゆるビッグ 4 からの輸入が 28.6% 増と大きく伸びている。特に、中国は 46.0% の著しい増加となり、そのシェアは前年同期の 25% から 33% に拡大し、供給国第 1 位の地位を堅持している。他方、他のビッグ 4 構成国の韓国、台湾、香港は、中国の大躍進の煽りを受けて、いずれも二桁の大幅な減少となっている。

アセアンからの輸入では、新興市場のベトナムとカンボジアが堅調に伸びている。他方、伝統市場のうち、インドネシアは安定しているが、タイとフィリピンは大幅な減少となり、アセアン全体としては、2.6% の減少となっている。

米近隣地域では、カリブ海諸国（CBI）からの輸入は 2.3% 増と堅調に推移している。しかし、NAFTA パートナーのメキシコとカナダはそれぞれ 5.7%、8.2% の減少となり、両国合わせて 6.6% 減と不調である。

こうした状況下で、メキシコは中国に次いで供給国第 2 位の地位を保持しているものの、カナダは本年 7 月以降、パキスタンに追い抜かれて第 3 位から第 4 位に転落している。

EU(15 カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツからの織物の不振が影響して、5.6% 減となっている。

上記の主要地域に含まれない「その他地域」では、パキスタンが 7.6% 増と順調に推移し、上述の通り、供給国第 3 位の地位にある。

また、インドが 20.3% 増、バングラデシュが 19.8% 増といずれも大幅な増加となっており、その他地域においてもアジア勢からの輸入が活発である。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年 1～9月	前年 同期比
全世界	32,864	32,812	38,288	42,227	46,936	38,330	8.5
NAFTA	7,951	7,558	7,722	7,238	7,373	5,252	6.6
メキシコ	4,747	4,290	4,335	3,926	4,101	2,961	5.7
カナダ	3,204	3,268	3,387	3,312	3,272	2,291	8.2
CBI	3,788	3,704	3,830	4,046	4,168	3,139	2.3
ホンジュラス	1,046	1,032	1,099	1,165	1,209	940	5.9
エルサルバドル	757	768	817	895	895	675	2.7
ドミニカ共和国	859	773	743	758	772	556	1.7
ビッグ4	5,886	5,911	9,348	12,633	16,128	15,524	28.6
中国	2,218	2,211	4,963	8,288	11,662	12,728	46.0
韓国	1,312	1,383	2,032	2,097	2,301	1,475	14.1
台湾	1,233	1,224	1,391	1,356	1,302	812	19.0
香港	1,123	1,092	962	892	862	508	20.3
アセアン	4,228	4,390	4,766	4,980	5,140	3,809	2.6
タイ	1,317	1,308	1,316	1,098	1,114	782	6.4
インドネシア	1,053	1,165	1,215	1,151	1,275	1,008	3.0
フィリピン	929	916	817	794	711	480	11.9
ベトナム	35	33	358	827	905	704	2.2
カンボジア	265	389	474	561	673	541	7.7
EU（15カ国）	1,863	1,868	2,055	2,059	2,063	1,453	5.6
イタリー	562	521	518	533	462	302	12.8
ドイツ	359	457	551	484	479	340	4.2
その他	9,148	9,381	10,567	11,272	12,064	9,153	0.6
パキスタン	1,997	2,189	2,537	2,690	2,970	2,433	7.6
インド	1,248	1,250	1,545	1,666	1,915	1,756	20.3
バングラデシュ	1,131	1,169	1,150	1,110	1,109	1,001	19.8
トルコ	867	871	1,068	1,026	982	657	12.7

2005年10月の米大手小売店販売、引続き堅調

- 71社で4.4%増 -

米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チエーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店（71社）の2005年10月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）4.4%増となった。これは、今年に入って3番目に高い伸び率であり、また前月（4.0%増）および前年同月（4.1%増）の伸び率を上回っており、米小売販売は引続き堅調に推移している。

アナリストは、「10月の小売販売は、10月前半は季節外れの暑さで購買客の足が遠のいたが、月末頃に季節通りの寒さが訪れたことに加え、小売店の販促、ハリケーン後の補充購買もあって、客足が回復し、全体では予想を上回る伸び率となった。衣料品関係では、長袖Tシャツ、セーター、アクセサリなどの売上げが伸びた。各商品分野にわたって、消費者の潜在需要はあり、クリスマス商戦は堅調に伸びると期待される」とコメントしている。

小売店のタイプ別販売では、ホールセール・クラブが8.2%増、高級品店と履物店が共に7.3%増、ドラッグ・ストアが5.2%増、ディスカウント・ストアが3.6%増、衣料品専門店が1.8%増となった。

ストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年 月	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
1	8.2	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6
2	7.6	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9
3	9.9	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1
4	4.2	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2
5	6.8	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9
6	7.4	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2
7	6.9	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6
8	6.7	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6
9	6.7	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0
10	5.7	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4
11	4.1	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	
12	6.7	0.7	2.2	1.0	3.9	2.7	
年間平均	6.7	4.0	2.6	3.1	2.9	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

大手百貨店の10月の販売は、一部を除き全般的に順調に推移し、特に高級百貨店は好調であった。

高級百貨店は、引続く富裕層の旺盛な購買に支えられて、サクスが10.0%増、ニーマン・マーカスが7.0%増、ノードストロムが6.4%増と、何れも大幅な増加となった。

また、中級百貨店は、ディラードが8.0%増、コールズが6.2%

増と順調に伸び、J.C.ペニーも2.4%増と堅調であった。但し、フェデレーテッドは0.7%の微減となった。同社は、「ハリケーン・ウイルマの襲来で36店舗が損害を受けたことが影響した」と語っている。

大手衣料品専門店チェーンの10月の販売は、企業間格差が出て、前月に続き斑模様を呈した。若者向け衣料品専門店チェーンでは、特にティーンズ向け主体の専門店チェーンが好調で、アバクロンビー&フィッチは31.0%増、アメリカン・イーグルは17.3%増、パシフィック・サンウエアは7.9%増と、いずれも大幅な増加となった。

一方、2大衣料品専門店チェーンのギャップとリミテッド・ブランドは苦戦し、それぞれ5.0%、4.0%の減少となった。このうち、ギャップは、傘下のバナナ・リパブリックが8%、オールド・ネビーが6%、ギャップが3%のそれぞれ減少となった。それでも、同社首脳は、「月末に客足が伸び、女性と男性用のアウター・ウエアやセーターなどが好調であった」と述べている。

また、キャリアウーマン向け主体の衣料品専門店チェーンでは、アン・テラー・ストアが1.2%の僅かな増加にとどまり、タルボットは0.3%の微減となった。

その他、メンズ・ウエア専門店のメンズ・ウエアハウスは6.7%増、プラスサイズの婦人用衣料品専門店のチャーミング・ショップズは3.0%増と、何れも安定した売上げを示した。

大手ディスカウント・ストアの10月の販売は、食料品と家庭用品を中心に順調に推移し、ターゲットが5.7%増、ウォル・マートが4.3%増となった。

このうち、ターゲットでは、女性・少女・少年用衣料品、家庭用品、赤ちゃん用品、シューズが売れ筋商品であった。

米主要小売店の2005年10月の販売状況

単位：100万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
	前年同月比	
<百 貨 店>		
ディラード	488	8.0
フェデレーテッド	2,138	-0.7
J.C.ペニー	1,170	2.4
コールズ	1,171	6.2
ニーマン・マーカス	325	7.0
ノードストロム	556	6.4
サクス	210	10.0
<衣料品専門店チェーン>		
アバクロンビー&フィッチ	189	31.0
アメリカン・イーグル	157	17.3
アン・テラー・ストア	175	1.2
エアロポステール	83	-2.5
チャーミング・ショップズ	206	3.0
ギャップ	1,280	-5.0
リミテッド・ブランド	629	-4.0
メンズ・ウエアハウス	117	6.7
パシフィック・サンウエア	88	7.9
タルボット	147	-0.3
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	3,694	5.7
ウォル・マート	23,255	4.3

◎ 米中繊維協定品目の米国の最近の対中輸入状況

去る11月8日に合意された、米中繊維協定の品目の詳細、規制枠、米国の輸入状況等は次のとおり。

Ca.No.	商品名	単位	2004年 実績 対中国	2004年 1-10 実績 対中国 (A)	2005年 1-10 実績 対中国 (B)	05/04 (B/A) (%)	2005年 1-10 実績 対全世界	2005年 1-10 中国シェア (%)	中国の 世界に 占める 順位	2006年 対中国	2007年 対中国	2008年 対中国
1	200/301 綿・化繊縫い糸、コームした綿糸	kg	3,065,460	2,802,117	5,298,324	189.1	75,761,302	7.0	5	7,529,582	8,659,019	10,131,052
2	222 綿・化繊製ニット織物	kg	10,620,590	9,609,487	14,249,339	148.3	108,842,082	13.0	3	15,966,487	18,361,460	21,482,208
3	229 綿・化繊製特殊用途織物	kg	19,085,044	15,137,285	23,874,754	157.7	113,957,178	21.0	1	33,162,019	38,467,942	45,007,492
4	332/432/632ptt 綿・毛・化繊製靴下及び幼児用靴下	dp	58,543,168	40,121,114	39,532,842	98.5	164,547,545	24.0	1	64,386,841	73,963,859	85,058,437
5	332/432/632ptb 上記の内枠		57,138,082	39,155,559	37,139,655	94.9	159,039,629	23.4	1	61,146,461	70,318,431	80,866,195
6	338/339pt 綿製男子用ニットシャツ及び女子用ニット シャツ及びブラウス	dz	2,816,082	2,478,361	20,593,108	830.9	310,631,978	6.6	5	20,822,111	23,424,875	26,938,606
7	340/640 綿・化繊製布用男子・男原シャツ	dz	2,471,403	2,161,430	6,163,772	285.2	40,998,605	15.0	2	6,743,644	7,586,600	8,724,590
8	345/645/646 綿・化繊製男女セーター	dz	1,073,133	955,521	7,387,005	773.1	16,193,254	45.6	1	8,179,211	9,201,612	10,673,870
9	347/348 綿製男子・女子用スボン	dz	2,184,056	1,712,028	18,349,384	1071.8	143,905,484	12.8	2	19,666,049	22,124,305	25,442,951
10	349/649 綿・化繊製ブラジャー	dz	17,734,954	15,048,422	17,992,444	119.6	41,689,767	43.2	1	22,785,906	25,634,144	29,479,266
11	352/652 綿・化繊製下着	dz	5,212,029	4,426,825	18,117,359	409.3	230,203,045	7.9	4	18,948,937	21,317,554	24,515,187
12	359s/659s 綿・化繊製水着	kg	1,188,464	914,666	2,085,723	228.0	10,885,469	19.2	1	4,590,626	5,164,454	5,990,767
13	363 綿製テリー及びひんパルタオル	no	21,477,205	18,389,827	75,313,122	409.5	546,580,821	13.8	3	103,316,873	116,231,482	134,828,519
14	443 毛製男子・男児用スーツ	no	152,525	131,481	1,253,875	933.7	6,630,594	18.9	1	1,346,082	1,514,342	1,756,637
15	447 毛製男子・男児用スボン	dz	66,550	57,442	182,278	317.3	1,295,117	14.1	2	215,004	241,880	280,581
16	619 ポリエステル長繊維薄地織物	m	3,882,288	3,589,345	51,755,080	1441.9	279,760,506	18.5	2	55,308,506	62,222,069	72,177,600
17	620 その他長繊維織物	m	5,895,247	5,210,417	75,028,432	1440.0	433,531,953	17.3	2	80,197,248	90,221,904	103,755,190
18	622 ガラスファイバー織物	m	16,015,884	11,924,142	23,568,579	197.7	67,860,047	34.7	1	32,265,013	37,104,765	43,412,513
19	638/639pt 化繊製男子用ニットシャツ及び女子用 ニットシャツ及びブラウス	dz	2,925,064	2,651,253	9,343,895	352.4	75,072,819	12.4	2	8,060,063	9,067,571	10,427,707
20	647/648pt 化繊製スボン	dz	2,851,279	2,427,687	7,523,288	309.9	52,252,926	14.4	1	7,960,355	8,955,399	10,298,709
21	666pt 化繊製窓用ブラインド及びシェイド	kg	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	964,014	1,084,516	1,268,884
22	847 綿混紡・交織及び麻等のスボン	dz	17,622,384	14,665,496	13,076,502	89.2	14,279,708	91.6	1	17,647,255	19,853,162	23,029,668

(出所) AAFA (American Apparel & Footwear Association)

(注) 1. 2005年10月の実績は商務省繊維・衣料品局 (OTEXA) 発表の暫定的データ。

2. 332/432/632pt、359s/659s、622の2005年の9月の暫定的データは発表されず、当該実績は1-9月の公式実績

3. 332/432/632ptの内枠はHTS番号の6115209010(化繊の長靴下)を除く。

4. 338/339、638/639はアンダーウェアのニットウェアのセーターは除外。当該ニットウェアのセーターの統計は現行では把握できないため、本実績にはこの品目の実績も

含まれている。米国は近く当該品目に該当する10桁のHS番号を作成予定。

5. 647/648はスキーパンツは除外。但し実績には当該実績が含まれている。

6. 666ptはHS6303120000と630392020の一部。現行ではデータの把握はできない。

組合関係の会議と催事

【2005年11月】

輸出

- ・平成17年度第3回「組合運営に関するタスクフォース」
- ・平成17年度第1回包括保険委員会（書面審議）
- ・ブラジル繊維市場調査を実施。

輸入

- ・東京・大阪・名古屋で「第14回貿易実務研修会」を開催。
- ・「第138回企画委員会」「第2回組合運営タスクフォース」始め各委員会を開催。

1日（火）

輸出（大阪）平成17年度第3回「組合運営に関するタスクフォース」（西田議長）が輸出組合会議室にて開催され、輸出組合の輸出振興策等について検討が行われた。

輸入（東京）日本橋税務署による税務調査が行われた。

2日（木）

輸入（東京）「第102回欧州・北米専門委員会」（細見委員長）が開催され、委員交代 正副委員長互選 「最近のアパレル消費動向について」（講師：ザ・ウールマークカンパニー/高橋経済調査部長） 「JITAC EUROPEAN TEXTILE FAIR」への出展 最近の輸入動向 情報交換が行われた。

10日（木）

輸出（大阪）平成17年度第1回包括保険委員会（安藤委員長）の書面審議が執行され、消費財包括保険の地域差料率（国倍率）引き下げ要望について承認された。

11日（金）

輸入（東京）高橋公認会計士による上期分会計監査が行われた。

輸入（大阪）輸入組合主催「第14回貿易実務研修会」（関西地区）が輸出繊維会館 BM 大ホールで開催され、大阪税関担当官を講師に各種講義が行われ、組合員134名が参加された。

16日（水）

輸入（東京）「第2回組合運営に関するタスクフォース」（池西議長）が開催され、日タイ FTA 協議 TFW タイ・インドの研究調査 中期収支見通しに関するアンケート調査について報告、検討が行われた。

17日（土）

輸入（名古屋）輸入組合主催「第14回貿易実務研修会」（名古屋地区）がパレロワイヤル シャンテで開催され、名古屋税関担当官を講師に各種講義が行われ、組合員26名が参加された。

21日(月)

輸入(東京) タイ国商務省輸出振興局及びタイ繊維業界代表との懇談会が開催された。

22日(火)

輸入(東京) 輸入組合主催「第14回貿易実務研修会」(関東地区)がTFTビル研修室で開催され、東京税関担当官を講師に各種講義が行われ、組合員 名が参加された。

24日(木)

輸入(東京)(1)「第138回企画委員会」(吉澤委員長)が開催され、日タイFTA協議等TFW第10回日中繊維貿易定期協議の開催計画 タイ・インドの調査 中国アジア専門委員会海外ミッション派遣 業務報告/繊維品輸入状況、国際繊維統計作成についてそれぞれ説明と審議が行われた。

(2) 関東地区OB会が開催された。

25日(金)

輸入(東京)「第9回関税評価対策G」(神谷議長)が開催され、HDS 国内港湾設備及び税関見学 各社の事後調査の結果について審議が行われた。

28日(月)~12月4日(日)

輸出(ブラジル)「ブラジル繊維市場調査団」(千速団長)がサンパウロ、リオデジャネイロで繊維市場調査を行った。

29日(火)

輸入(大阪)「日本黄麻製品輸入協議会・第117回運営委員会」(塩田委員長)が開催され、2006年黄麻製品輸入見通しの策定 情報交換が行われた。

30日(水)

輸入(東京) タイ・インドの貿易調査研究の打合せが行われた。

12月のスケジュール(12月13日現在)

1日(木)	輸入	(東京)	タイとのビジネス・マッチング等打合せ
2日(金)	輸入	(大阪)	「第80回中国アジア専門委員会」
5日(月)	輸出	(大阪)	繊維団体新年名刺交換会打合せ会
	輸入	(東京)	バングラデシュ首相府官房長官との懇談
6日(火)	輸入	(東京)	バングラデシュ首相府官房長官の小藪理事長への訪問
	輸入	(東京)	ザ・ピープル吉田理事長との打合せ
	輸入	(東京)	「第12回繊維製品3R推進会議」
	輸入	(東京)	「第103回欧州北米専門委員会」
8日(木)	輸入	(大阪)	「第23回綿委員会」
	輸入	(大阪)	タイ商務参事官事務所との打合せ
9日(金)	輸入	(熊本)	「第66回アパレル委員会」
13日(火)	輸入	(東京)	「第62回貿易制度専門委員会」
15日(木)	輸出	(大阪)	日本繊維産業連盟・常任委員会
16日(金)	輸入	(神戸)	「第10回関税評価対策G」/神戸税関との懇談会

ブラジル繊維市場調査団の派遣

日本繊維輸出組合は、わが国の繊維輸出振興のために新たな市場を開拓・確保する観点から、以下の通り、BRICsの一角を占めるブラジルに繊維市場調査団を派遣した。

なお、本調査団員は企画委員会、タスクフォースの各委員会社より応募頂いたメンバー及び組合事務局で構成されている。

1. ブラジル繊維市場調査団員

(敬称略)

	氏名	所属企業(団体) 役職名	
団長	千速 晴康	丸紅株式会社	繊維原料部・副部長
団員	笠松 幸一	伊藤忠商事株式会社	繊維経営企画部・部長代行
"	柳川 勝彦	三菱商事株式会社	繊維原料資材部・部長
"	内海 博基	日本繊維輸出組合	専務理事
"	小網 順治	"	業務部・部長

2. ブラジル繊維市場調査団の主な調査項目

ブラジルの繊維産業の現状及び今後の変貌予測

ブラジル繊維品貿易の動向

ブラジルの貿易管理制度・貿易政策

日本の繊維品への品質・価格等への評価

ブラジル向け繊維品輸出上の障壁・問題点

ブラジルとの取引の問題点(為替リスク等)

日本の繊維産業界がブラジルに繊維品を輸出する可能性の有無

3. 調査日程と調査地域

調査日程は11月27日(日)~12月4日(日)、調査地域はサンパウロ及びリオデジャネイロ(主としてサンパウロ)。

4. 調査訪問先・視察先

以下の「ブラジル繊維市場調査団調査日程表」参照。

ブラジル繊維市場査団調査日程
(2005年11月27日(日)～12月4日(日))

月 日	現地時間	視察・訪問先等
11月27日(日)		成田発
11月28日(月)	07:45	サンパウロ着
	11:00	ブラジル東京三菱銀行訪問
	13:00	JETRO サンパウロ・センター訪問
	14:10	日清紡訪問
	15:20	クラボウ訪問
11月29日(火)	09:00	ABIT(ブラジル繊維アパレル協会)訪問
	11:00	ABEST(ブラジルスタイリスト協会)訪問
	14:00	ABEST会員各店視察・訪問
11月30日(水)	09:00	東洋紡本社工場訪問
	14:00	プラス問屋街、子供服卸「NAITO」視察
12月1日(木)	10:30	リオデジャネイロ ショッピングセンター等視察
12月3日(土)	00:35	サンパウロ発
12月4日(日)		成田着

消費財包括保険の地域差料率(国倍率)の引下げを要望(輸出組合)

輸出組合は、貿易保険当局における消費財包括保険等の地域差料率(非常危険てん補に係る保険料計算に際し、基本料率に掛けられる国別の倍率)の見直しに備え、関心の強い2カ国について、11月15日付で独立行政法人日本貿易保険理事長宛に、下記内容の地域料率(国倍率)引下げ要望書を提出した。

拝啓 時下益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

平素は繊維品包括保険につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

併せ、消費財包括保険におきましての地域差料率では、一部の国・地域につきまして引下げが実施されましたことには深謝致しております。

ご高承のとおり、我が国の繊維品輸出は高級品分野では欧米先進諸国と、また一般品分野では東アジア諸国等発展途上国との激しい競争下にありますが、取引形態等が多様化するなかで東アジア市場は全世界向けの80%弱を占める重要な市場となっております。

そのうち、中国向けは全世界向けの50%弱を、また香港向けは10%強を占める市場となっており、これら地域向け輸出におきましても常々貿易保険による安心感をもって輸出取引の増進に努力してきておりますが、当該市場に対する地域差料率はなお比較的高水準であるとの認識を持っております。

つきましては、コスト削減が急務となっている繊維品輸出業者にとりましては地域差料率の引下げが極めて重要な事柄でありますので、特に下記の市場に対しましての料率引下げ実現に向けて、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 対象国 / 地域及び国倍率

<u>対象国 / 地域</u>	<u>現行国倍率</u>	<u>要望国倍率</u>
中 国	2 . 0 倍	0 . 4 倍
香 港	2 . 0 倍	0 . 4 倍

2. 理 由

中 国

中国は、現在、我が国の全繊維品輸出の50%弱を占める最大の市場であり、その大部分は日本から原材料を輸出して現地で加工後我が国に輸入する所謂“持帰り輸出”であり、一部には現地調達の方が見受けられるが、この持帰り輸出は依然増勢を維持しており、また第三国向けに輸出される加工再輸出用輸出においても取引上のトラブルもなくスムーズに決済されている。

中国は、世界中に衝撃を与えた人民元切り上げから数ヶ月、切り上げ幅はわずか2%である。中国ビジネスに係る誰もが、これを新たな中国经济改革の「経済国際化の第一歩」と受けとめている。当初の予想を下回る切り上げ幅で、日本の繊維産業に大きな影響は出ていない。

中国は、08年に北京オリンピックまた10年には上海万博と2つの大きなイベントの開催が予定され、高度経済成長を続け貿易、先進技術導入、外資導入等の国際関係を強化するため、通商関連法規を始め各種整備が進められ、各国の対中国貿易には安定性と信頼性が増し、中国繊維産業も引続き成長を維持し、さらに拡大する見通しである。

WTOに加盟し(01年12月)、これに伴い関税率の引下げ、市場の開放等、経済システムへの改革を迫られており、しかも中国の経済が大きな伸びで進むなか、中国市場は、生産拠点としてだけでなく、潜在的な大きな消費市場としてのチャンスを秘めている。我が国繊維産業にとっても、中国市場はビジネス面で大きな魅力があり、中国繊維産業との共存・共栄を図る外、我が国の繊維製品の輸出市場としても非常に重要であり有望な市場と思われる。

中国向け輸出は、取引相手先の多くが我が国の合弁企業であることもあって、

これまで信用危険事故はもとより非常危険事故による保険求償も全くなく、極めて保険リスクの低い国である。

従って、中国の国倍率については、先進国並みの 0.4 倍を適用されることを要望します。

香 港

我が国の香港向け繊維品輸出取引は従来から期近積みが多く、代金決済も米ドルとリンクした通貨による短期決済である等良好な取引環境にあり、我が国の繊維品輸出に係る保険事故発生の危険性は極めて少ない安定した市場であり、繊維品の輸出市場としては依然大きなものがある。

香港は、優れた国際ビジネス機能を基盤とした先進国並みの取引環境を維持し、活発な対外経済活動を推進している。

香港の貿易決済、金融、マーケティング等世界の情報を収集する拠点としては中国の中でも香港は圧倒的な魅力を持っている。

今後とも香港向け繊維品輸出を維持・拡大していく為にも、香港の国倍率については、先進国並みの 0.4 倍を適用されることを要望します。

- 「第 14 回貿易実務研修会」(東京/大阪/名古屋) を開催-

日本繊維輸入組合

輸入組合は組合員の通関業務の一層の円滑化を図ることを目的とし、輸入通関手続きに関する基礎的な知識修得のため、組合員・新入社員クラスの貿易業務担当者を対象として「第 14 回貿易実務研修会」を東京・大阪・名古屋で開催した。

<敬称略>

関西地区

日 程 : 2005 年 11 月 11 日 (金)
 場 所 : 輸出繊維会館地下 BM 大ホール
 参加者 : 134 名
 時間・科目及び講師 :

時 間	科 目	講 師
10:30 12:00	「関税評価」について	大阪税関 業務部 調査保税部門 評価部門担当 特別価格審査官 林田 英一
13:00 14:00	「知的財産権」について	大阪税関 業務部 知的財産調査官 河野 博一
14:15 15:15	「品目分類」について(繊維関係)	大阪税関 業務部 関税監査官 松本 澄男
15:20 16:50	「加工再輸入減税制度」について	大阪税関 業務部 通関総括第 3 部門 総括審査官 篠崎 昇平 通関第 2 部門 総括審査官 塚田 義彦

名古屋地区

日 程 : 2005年11月17日(木)

場 所 : パレロワイヤルシャンテ3階「メヌエット」

参加者 : 26名

時間・科目及び講師 :

時 間	科 目	講 師
10:00 11:50	「輸入申告手続きについて」	名古屋税関 業務部 通関総括第1部門 上席審査官 鈴木 祥公
13:10 14:20	「商品分類について」	名古屋税関 業務部 関税鑑査官 原 聡子
14:30 15:40	「加工再輸入減税制度について」	名古屋税関 業務部 通関総括第2部門 審査官 小山 修
15:50 17:00	「関税評価について」	名古屋税関 調査保税部 評価部門 統括調査官 下家 正治

関東地区

日 程 : 2005年11月22日(火)

場 所 : 東京ファッションタウンビル 研修室

参加者 : 80名

時間・科目及び講師 :

時 間	科 目	講 師
10:00 11:30	「輸入手続きについて」	東京税関 業務部 通関総括第1部門 上席審査官 笠松 敏
12:30 14:20	「輸入通関時の商品分類について」	東京税関 業務部 首席関税鑑査官 久保 久男
14:10 15:40	「関税評価制度について」	東京税関 調査保税部 統括審査官付 上席調査官 藤嶋 嘉幸
15:50 17:20	「加工再輸入減税制度について」	東京税関 業務部 通関第3部門担当 統括審査官 佐々木 徹

- 「 Bangladesh 投資セミナー 」 の概要 -

去る 12 月 7 日（水）に東京商工会議所において、日本 Bangladesh 経済委員会・UNIDO・駐日 Bangladesh 大使館の主催で「 Bangladesh 投資セミナー」が開催された。以下は同セミナーでの説明概要である。

それに先立ち、12 月 6 日（火）には来日された Mr.Md.Didadul Ahsan 首相府官房長等が当組合小藪理事長を訪問され、 Bangladesh への投資促進に対する協力依頼があった。

- 「 Bangladesh 投資セミナー 」 での説明概要 -

日 時： 2005 年 12 月 7 日（水） 10：00 ~ 12：00

場 所： 東京商工会議所 B2 講堂

主 催： 日本 Bangladesh 経済委員会・UNIDO・駐日 Bangladesh 大使館

後 援： JETRO・(財)海外投融資情報財団・東京商工会議所

(1) Bangladesh 大使 M.セラジュール・イスラム閣下挨拶要旨

本日、 Bangladesh の投資機会についてのセミナーで、皆様にお話できますことを大変喜ばしく存じております。また、この度セミナー開催にご協力下されました日本・ Bangladesh 経済合同委員会開催者の皆様に、感謝申し上げます。 Bangladesh の代表からセミナーの要旨について詳しくご説明の上、皆様からのご質問にもお答えいたしますが、私からは、 Bangladesh への投資を皆様にお薦めする理由について、若干お話させていただきます。

今日の Bangladesh は、経済開発の分野で成功談となり得る可能性に満ちております。我国の経済・社会の成長を示す指標は、大規模な外国投資を受け入れ、保持し得る水準に達しております。世界の主要な投資企業がこれを認めております。最近、インドのタタ財閥は、 Bangladesh に US 20 億ドルの投資申し込みをしており、現在、この大規模投資について、我国関係当局と折衝中です。また、アブ・ダビのダビグループは、 US \$ 10 億ドルの投資を検討しており、シンガポールの Singtel は、投資を実行しており、その投資額は約 US \$ 2 億ドルに達しています。 Bangladesh は、これらの主要な外国投資企業に、有望な投資先として認識されています。

日本の投資企業もまた Bangladesh に進出しています。しかし、残念ながら、日本は寛大な ODA を供与し、我国の経済基盤の開発に貢献されているその密接な経済関係の割りには、日本からの投資額は、我々の期待している額には達していません。勿論、日本からは、YKK、また、本日講師としてご出席の丸三産業(株)初め、有力な日本企業各社が業績を伸ばしておられますが、さらに多くの日本企業が、 Bangladesh に進出されることを期待しております。 Bangladesh が投資先として有望な理由を、付け加えてご説明します。

まず第一に、人口 1 億 4 千 5 百万の Bangladesh は、どの国の企業にとっても投資先となり得ます。さらに、ご存じないかも知れませんが、 Bangladesh への投資は、遂には人口 1.5 億の南アジアの市場の門戸を開くことになり、この地域は南アジア地域協力機構の下に自由貿易ゾーンの構想が醸成されております。

第二に、バングラデシュは、知的能力の高い、豊富な、かつ低廉な労働力を提供できます。この事実に加えて、政府の提供する投資優遇措置をみていただければ、もっと早い機会に、バングラデシュへの投資を検討すべきであったと気づかれたでしょう。

最後に、バングラデシュ人は、日本人に対して非常な親近感を抱いております。今日では、バングラデシュに旅行される日本人は、我国の社会・経済の開発に寄与された日本の貢献をつぶさに見聞することができます。それは、橋であり、貧困軽減の事業であり、また日本で研修、教育を受けて日本語を話すバングラデシュ人に各地で遭遇することで分かります。日本はバングラデシュの最も大切な、開発のパートナーです。貴国のODAが、今日成長を遂げつつあるバングラデシュの国造りに、多大な貢献をしております。ご出席の皆様は、私は確信をもって申し上げたいのですが、我国への投資企業は、政府が提供する各種投資優遇策に加えて、投資企業にとって最も友好的な環境の中で企業経営ができるという事です。

さて、ご出席の皆様、本年7月、我国カレダ・ジア首相は日本公式訪問致しました。その折、日本の実業界および投資企業の皆様との盛大な会議の席上、首相がご挨拶を致しました。首相の訪日と当時のセミナーを機に、日本企業家のバングラデシュ訪問の気運が高まりました。その一つの事例が日本の大手企業のTORAYであります。すでにバングラデシュへの投資の検討が進められております。本日のセミナーもまた、本年7月、我国首相の訪日で高められた我国への関心を一層盛り上げてくれますよう希望しております。

(2)「輸出加工区における投資機会について」

1 **バングラデシュ輸出加工区への投資機会**

首相府・バングラデシュ輸出加工区庁
2005年 11月

2 **プレゼンテーション**

バングラデシュ輸出加工区庁 (BEPZA)
技術担当理事 アブ・レザ・カーン

3 **EPZ (輸出加工区) の定義**

原料の輸入・加工・製造・再輸出を軽減された関税及び税関手続きで行う経済特区である。

4 **バングラデシュの輸出加工区所在地**

5 **BEPZAの運営**

首相を議長とする関係省庁長官会議
BEPZA長官を議長とする執行委員会
BEPZA長官による統率運営
ゼネラルマネージャーによる各輸出加工区の運営

6 **BEPZA 組織図**

7 **国別 (29カ国) 投資企業内訳**

(2005年9月現在)

A -	100%外資	141	61%
B -	合弁企業	34	15%
C -	100%現地資本	56	24%
	操業企業合計	231	100%
	認可済未操業企業	61	
	設立許可交付済企業	55	
		347	

8 B E P Z A の使命

投資促進と雇用の創出によるバングラデシュ経済基盤の強化

9 B E P Z A の目的

1. 外国・現地企業の投資促進
2. 輸出促進
3. 輸出品目の多様化
4. 後発企業の開発と推進
5. 雇用の促進
6. 技術移転
7. 技術の向上と熟練
8. 企業管理運営の向上
9. 国際市場へのアクセスと販売量の促進

10 B E P Z A の背景

ジアウル・ラーマン元大統領が生みの親となる。

- 1980年 B E P Z A 法制定。
- 1980年 外国民間投資法制定。
- 1978年 チッタゴン加工区着工。
- 1983年 チッタゴン加工区操業。
- 1993年 ダッカ加工区操業
- 1997年 拡張。

4 加工区操業開始：モングラ、コミラ、イシュワルディ、ウッタラ。

2 加工区追加加工中：ダッカ近郊とチッタゴン港隣接地。

11 バングラデシュ輸出加工区の優位点

1. 法と秩序の安定
2. インフラ施設の整備
3. 諸手続所要時間の短縮
4. 操業コストの低減
5. 政府の友好的政策
6. 各種優遇措置
7. ベンチャー企業の受入
8. 企業成功事例

12 インフラ施設

1. 基礎的インフラの整備：電気、ガス、水道、道路、テレコム、eメール
2. 平均2,000平方メートルの整備済工場用地
3. 賃貸用工場ビル
4. 従業員用宿舍用地
5. 倉庫
6. 速配便業者、警察署、消防署、郵便局、貨物運送業者、その他
7. 業務サポート諸サービス：ショッピングセンター、緑地地帯、デイケアセンター、ヘルスクラブ、企業者クラブ、メジカルセンター、スポーツ施設、外国人用宿泊設備、学校、公共用乗物、その他

13 諸手続所要時間の短縮

1. 加工区内での輸出入の認可
2. D A ベースの輸入許可
3. 輸出入手続の簡素化
4. 輸出入認可即日発給
5. 原料の内国輸入許可
6. 加工区内外からの下請加工契約の許可

14 財政優遇措置

1. 10年間免税及び以降5年間の免税
2. 工場建設用の材料・機械・部品・設備の輸入税免除
3. 輸出入税の免除
4. 二重課税防止
5. 配当税免除
6. 特恵関税制度の適用可
7. 自動車3台まで無税輸入許可
8. 外国人従業員の所得税3年間免除
9. 機械・工場設備の加速減価償却
10. ロイヤルティ、技術・コンサル料の自由送金
11. E U、カナダ、ノルウェー、オーストラリア、米国への関税、数量規制制度の撤廃交渉中

- 15 非財政優遇措置
- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 1980年 外国投資保護法制定 | 6. 直接ルートによる海外からの外貨ローン |
| 2. 100%外国企業の所有権認可 | 7. “A”タイプ企業の非居住者預金制度 |
| 3. 最恵国待遇の供与 | 8. “B”、“C”タイプ企業の外貨建会計の運用 |
| 4. 外国投資額の上限なし | 9. 居住権/市民権の付与 |
| 5. 資本金、配当金の全額本国償還認可 | |

16 電気・ガス・水道料金

17 年次別投資受入額

1994年 2005年(9月現在:百万ドル単位)
1995年 - 2006年(9月現在推定額:12.83\$m)

総投資額 = \$879.84

18 年次投資累計額

2005年9月現在

19 年次別輸出総額(百万ドル単位)

2005年9月現在 輸出総額 \$10,465.37mil

20 年次別輸出累計額グラフ表(百万ドル単位)

2005年9月現在

21 バングラデシュ総輸出額のBEPZA寄与分
(US百万ドル単位)

年次	バングラデシュ 輸出総額	輸出加工区 輸出総額	輸出加工区 寄与分の%
----	-----------------	---------------	----------------

22 年次別雇用人数と累計(2005年現在)

2006年9月まで推定含 雇用人数累計:158,216人

23 国別投資企業数(2005年現在)

操業中:231社 認可済未操業:115社
投資国総数:29カ国

24 輸出加工区内製造ブランド製品

日本企業製造のブランド製品:
カメラレンズ・パーツ - コニカ、ミノルタ
ゴルフシャフト - アブガルシア
携帯電話パーツ - ソニー
自動車部品 - 日産、三菱、日野

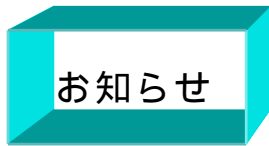
25 設立推奨産業別リスト

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 衣服類 | 12. 皮革、革製品 |
| 2. 農産業 | 13. 石油、ガス関連産業 |
| 3. 造花製造 | 14. 養蚕業関連 |
| 4. コンピューターソフト及びICT | 15. 詰物玩具 |
| 5. 電子部品 | 16. 繊維産業 |
| 6. 冷凍食品 | 17. 観光産業 |
| 7. 生花栽培 | 18. 基礎化学産業用原料 |
| 8. 贈答品 | 19. 繊維産業用染料、化学薬品 |
| 9. インフラ設備品 | 20. メガネフレーム |
| 10. ジュート、ジュート混成品 | 21. 家具 |
| 11. 宝石、ダイヤモンドカット、研磨 | 22. その他衣料品雑貨 |

26 日本企業の累計投資額と雇用累計

投資額累計(US百万ドル単位):\$122.06
従業員雇用累計 :5,006名

27 BEPZA内日本企業リスト



繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 18 年 1 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 17 年 7 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成 17 年 1 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 18 年 1 月 20 日（金）
2. 提出書類： 貿易一般保険包括保険(繊維品)
 保険期間延長依頼書 2 通
 (用紙は事務局で準備しています。)
 延長を必要とする包括保険申込書のコピー 1 通
3. 提出先:保険部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)
 保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2005 年 7 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	104506 ~ 105078	101936 ~ 102256	100214 ~ 100242
	505488 ~ 506328		

前受け以外に係る 2005 年 1 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	100001 ~ 100870	100001 ~ 100369	100001 ~ 100061
	500001 ~ 500821		

お知らせ

年末年始の包括保険申込書の受付事務（輸出組合）

独立行政法人日本貿易保険大阪支店の包括保険申込書の受付が、年末は12月23日（水）に終了し、年始は1月4日（水）から開始されることに伴い、輸出組合の同申込書の受付事務は下記要領にて行いますので、ご通知します。

組合への持込 又は F A X	受付月日	交付月日
12月28日（水） 午後3時まで	12月28日（水）	1月4日（水） 午前中
12月28日（水） 午後3時以降 1月4日（水） 正午まで	1月4日（水）	1月5日（木）

輸出組合・輸入組合の年末・年始の執務

標記について、下記の通り、お知らせします。

記

年末の業務終了： 2005年12月28日（水） 終日

年始の業務開始： 2006年1月4日（水） 午前中

平成18年新年賀詞交歓会の案内（輸出入組合）

恒例により平成18年新年賀詞交歓会を日本繊維輸入組合と日本繊維輸出組合の共催により下記のとおり開催いたしますので、何卒万障お繰り合わせのうえ、いずれか都合の良い地区にご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

一、関西地区

日時：平成18年1月5日（木） 午後5時～午後6時30分
場所：輸出繊維会館 BM ホール
大阪市中央区備後町3-4-9
電話 06-6201-1671

二、関東地区

日時：平成18年1月6日（金） 午後5時～午後6時30分
場所：飯野ビル 9階 「キャッスル」
東京都千代田区内幸町2-1-1
電話 03-3506-5070～2

三、名古屋地区

日時：平成18年1月10日（火） 午後5時30分～午後7時
場所：名古屋観光ホテル 3階 「桂の間」
名古屋市中区錦1-19-30
電話 052-231-7711

(東京税関)

東京港における年末年始の通関業務等取り扱いのご案内

税関では平成15年7月より税関の執務時間外における通関体制を整備しており、年末年始におきましても通関業務等を行うこととしております。つきましては、業務の集中等が考えられることから業務を円滑に行うため、下記のとおり取扱いをいたしますのでご協力をお願いいたします。

- 12月28日(水)までの通関業務について

- ・予備審査制等により早めの申告をお願いいたします。

12月29日(木)から1月3日(火)までの通関業務等について

(1) 予定表の提出のお願いについて

- ・事前に予定が判明している場合には、「**輸出入申告予定表**」(別紙様式1)を28日(水)17:00までに、「**保税事務取扱予定表**」(別紙様式2)を28日(水)午前中までにそれぞれ貨物蔵置場所の管轄の税関官署通関総括部門又は保税部門に提出をお願いいたします。
- ・28日(水)17時以降に予定が判明した場合は大井出張所検査・特別通関部門に連絡をお願いいたします。

(2) 通関業務等について

大井出張所検査・特別通関部門では、1月1日を除いて、本関、晴海出張所(海上貨物に限る)、芝浦出張所、大井出張所の管轄の下記の業務を行います。

輸出入通関業務

積載船名等変更の取扱い(受付時間以外は、監視部監視取締部門に提出願います)

保税運送の承認及び到着確認、コンテナリストの受理

搬入事故等が発生した際の連絡受付(ただし、大井出張所検査・特別通関部門で通関される貨物に限る)

大井出張所検査・特別通関部門
 受付時間： 08：30 ～ 17：00
 所在地：東京都大田区東海4 1 10
 電話：03 3790 6819
 FAX：03 3790 6819

(3) 緊急時の連絡について

大井出張所検査・特別通関部門の受付時間外の上記(2) ～

大井出張所検査・特別通関部門で通関される貨物以外の搬入事故等は、下記まで連絡をお願い致します。

本関連絡窓口 03 3599 6331 Fax 03 3599 6446

ご不明な点がございましたら、各署所の**通関総括部門又は保税部門**にお問い合わせください。

各署所の通関総括部門、保税部門の連絡先

本関	通関総括第1部門	03 3599 6337
	保税取締部門	03 3599 6424
晴海出張所	通関総括部門	03 3532 2785
	保税部門	03 3532 2788
芝浦出張所	通関総括部門	03 3455 4542
	保税部門	03 3455 4942
大井出張所	通関総括第1部門	03 3790 6812
	保税取締部門	03 3790 6853～4

(大阪税関)

業務揭示第1号

年末・年始における輸出入貨物の取扱事務について

大阪税関においては、平日夜間、休日等執務時間外における輸出入貨物の通関需要に対応するため、南港出張所特別通関部門及び関西空港特別通関部門に職員を常駐させるとともに、各官署においても常駐時間外の連絡体制として緊急連絡窓口を設置しております。

来る年末・年始期間につきましても、下記のとおり通常の土・日・休日と同じ体制で輸出入通関業務及び保税業務を行います。

〔年末・年始期間：平成17年12月29日（木）～平成18年1月3日（火）〕

平成17年11月30日

大阪税関長 森川 卓也

記

・官署別取扱事務

1. 本関及び本関直轄出張所（桜島、富島、安治川、南港、大手前及び大阪航空貨物出張所）管内に蔵置されている貨物

1月1日を除き、年末年始期間中も通常の土・日・休日と同じ体制で南港出張所特別通関部門において業務を行います（08：30～17：00の間職員が常駐）。

各官署は当該期間中、原則として閉庁します。

なお、取扱業務について御不明な点がある場合は、あらかじめ管轄官署にお問い合わせください。

2. 関西空港税関支署管内に蔵置されている貨物

年末年始期間中も通常の土・日・休日と同じ体制で関西空港税関支署特別通関部門において業務を行います（終日職員が常駐）。

3. その他の支署・出張所管内に蔵置されている貨物

各支署・出張所については、原則として閉庁します。

ただし、事前の申出があった場合には対応いたしますので、12月28日（水）午後5時までに各支署・出張所に御相談ください。

・緊急連絡先

緊急時には各官署の緊急連絡窓口又は次の部署に御連絡ください。

南港出張所特別通関部門（Tel 06 - 6614 - 5308）

関西空港税関支署特別通関部門（Tel 0724 - 55 - 1719、1720）

なお、1月1日（日）につきましては、南港出張所特別通関部門に職員は常駐しておりませんが、電話は連絡専用窓口に自動転送されます。

大阪税関ホームページ（<http://www.osaka-customs.go.jp/>）でも御案内しております。

年未年始における税関手続の取扱いについて

神戸税関では、神戸港の年未年始（平成17年12月29日（木）から平成18年1月3日（火）の間）における輸出入通関及び保税に関する事務並びに外貨船用品（機用品）積込承認事務について下記のとおり取扱います。

記

1．輸出入通関及び保税に関する事務

ポートアイランド出張所特別通関部門（以下「夜間・休日通関窓口」という。）において8時30分から17時までの間、輸出入通関手続全般及び輸出入通関に関連する保税手続に関する事務を取扱います（1月1日を除く。）。

2．外貨船用品（機用品）積込承認に関する事務

監視部取締部門（本部）において取扱います。

3．年未年始における連絡先

上記1若しくは2又はその他税関手続に関する連絡先は下記にお願いします。

（1）上記1に関する事務

8時30分から17時まで（1月1日を除く。）

夜間・休日通関窓口TEL078-303-3623

上記以外

時間外連絡窓口TEL078-333-3000

（2）上記2に関する事務

・監視部取締部門（本部） TEL078-333-3048

（3）その他税関手続に関する事務

・時間外連絡窓口TEL078-333-3000

(名古屋税関)

年末年始の税関業務処理体制について

名古屋税関

名古屋税関本関並びに中、稲永、金城埠頭、南部、国際博覧会及び西部の各出張所における年末年始の通関・保税・監視事務については、下記のとおり取り扱います。

なお、年末は、輸出入申告等が集中することも予想されますが、税関においては、迅速・適正な業務処理に努めてまいりますので、関係各位におかれましても、申告・申請等の手続については、できるだけ早めに行っていただきますようご協力をお願いします。

記

1. 輸出入通関・保税関係手続

期 間	本関並びに稲永、金城埠頭、南部及び西部の各出張所	中、国際博覧会出張所
12月29日(木) ～ 1月3日(火)	本関業務部通関第1部門(特別通関班)において処理(注) 【1月1日を除く】	12月28日(水)午後5時までに申し出てください。 国際博覧会出張所は12月31日をもって廃止となります。

(注1) 窓口開設時間 08:30～17:00。

(注2) 保税業務については、包括保税運送承認等、特別通関班では処理できない業務があります。ご不明な点は、12月28日(水)までに保税取締部門(052-654-4094)まで照会願います。

閉庁期間中に緊急な用件が発生した場合は、次へ照会願います。

執務時間外連絡窓口(監視部取締部門本部) 電話052(398)4246

2. 監視関係手続

期 間	監視部取締部門本部	監視部許可通関部門、南部及び西部出張所
12月29日(木) ～ 1月3日(火)	通常どおり	監視部取締部門本部において処理

3. その他

名古屋税関本関並びに中、稲永、金城埠頭、南部、国際博覧会及び西部の各出張所以外の官署における年末年始の税関業務処理体制については、それぞれの官署から関係者にお知らせすることとしております。

以上

お知らせ

- 2006年1月の輸入通関手続相談窓口開設日 -

2006年1月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2006年1月11日(水)及び1月25日(水)
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次

(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)

5. 連絡先

Tel 番号 03(3270)0791

Fax 番号 03(3243)1088

E Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以上

組合員情報

組合員の脱会

(輸 出) 株式会社 グッドリブ(2005年12月31日付け)

取引照会・展示会案内

[原文は、輸入及び展示会は輸入組合・市場対策室 (Tel: 06-6202-5575) に保管していますので、必要な向きはご照会下さい。また、輸出の詳細は同組合のホームページ (<http://www.jtea.or.jp>) をご覧下さい。]

輸入

No.4313 インドネシア ヤーン

会社名 : PT. MITRA SARUTA INDONESIA.

住所 : Jl. Raya Krikilan Km. 28, Driyorejo, Gresik 61177, Indonesis

担当者 : Ms. Elke Anatasia, Export Marketing

F A X : 62-31-897-7222

T E L : 62-31-897-7777

品目 : 100% Cotton and Polyester/Cotton mixed Yarns.

輸入

No.4314 バングラデシュ ジュート製品

会社名 : CITY ACCESSORIES INDUSTRY

住所 : House #19, Road #5, Block #A, Section #10, Mirpur, Dhaka, Bangladesh

担当者 : Mr. Azam Khan Jashim, Managing Director

F A X : 880-2-801-1374

T E L : 880-2-801-1374

品目 : Tree Wrapping Jute Sheets and Jute Goods.

輸入

No.4315 リトアニア ニット衣料品

会社名 : GARLITA

住所 : "Garlita "Pagiriu Km., Garliava, Kauno Raj. Lietuva, Lithuania

担当者 : Mr. Rasa Staneviciene, Production Director

F A X : 37-037-39-3893

T E L : 37-037-39-3677

品目 : All Kind of Knitwears for Ladies', Men's and Children's..

輸出

No.2005-2 モーリシャス 織物等

会社名 : A. R.. AZEER

住所 : 12, Arnaud Street, Beau-Bassin, Mauritius

担当者 : Mr. A. Raffic Azeer, Director

F A X : 230-465-4591

T E L : 230-266-4345

品目 : Textile Piece Goods, Garments Accessories, Ready Made Goods, etc.

輸出

No.2005-3 ヨルダン 織物

会社名 : ISMAEL ALLAN OFFICE

住所 : Amman Center, Alhashmi Street, P.O. Box1736/11118, Jordan

担当者 : Mr. Ismael Allan, Manager

F A X : 00962-6-461-7099

T E L : 00962-6-439-2059

品目 : All kind of Fabrics, Car Seat Fabrics, etc.

(国内)

No.1058

モード・イタリア 2006 2007秋冬コレクション

<東京会場>

会期 : 2006年1月16日(月)~18日(水) 10:00~18:00

会場 : ホテルオークラ別館3・4・5階

<大阪会場>

会期 : 2006年1月19日(木)~20日(金) 10:00~18:00

会場 : 大阪ヒルトンホテル16・17・18・19・20階

後援 : 日本繊維輸入組合

出展社数 : 約110社

展示商品 : 紳士・婦人・子供用各種衣料品、毛皮・皮革衣料品、バッグ、靴、アクセサリ等

問い合わせ先 : イタリア貿易振興会東京事務所・ファッション部門(Tel:03-3475-1401)

No.1059

インターナショナル・ファッション・フェア

(International Fashion Fair)

会期 : 2006年1月18日(水)~20日(金) 10:00~18:00

会場 : 東京ビッグサイト(東京国際展示場 西展示棟)

主催 : (財)日本ファッション協会

後援 : 経済産業省、東京都、日本貿易振興機構、日本繊維輸入組合、日本繊維輸出組合等

出展社数 : 約600社

展示商品 : 紳士・婦人・子供・幼児用各種衣類、毛皮、皮革衣料、靴、バッグ、アクセサリ等

問い合わせ先 : インターナショナル・ファッション・フェア事務局(Tel:03-3639-8030)

(海外)

No.1060 GERMANY

ハイムテキスタイル2006

(Heimtextil 2006)

会期 : 2006年1月11日(水)~14日(土) 9:00~18:00

会場 : ドイツ・フランクフルト国際見本市会場

主催 : メッセフランクフルト株式会社

出展社数 : 約3,000社

展示商品 : カーテン、ベッド・キッチン・テーブルリネン類、家具用生地等

問い合わせ先 : メサゴ・メッセフランクフルト(株)(Tel:03-3262-8441)